(明治四十四年七月十八日第三種郵便物認可)
(明治四十四年九月一日納本)
(毎月一回一日發行)

第壹巻第三號

THE PURITY

廓清

東京 廓清會 發兌

著者	書名	定價	郵税
博士デビス著	新島襄先生傳	一圓	十二錢
村田勤著	マルチン、ルーテル	四十錢	六錢
村田勤著	ナイチンゲール	五十錢	六錢
徳富健次郎著	ゴルドン將軍	五十錢	六錢
有島武郎・森本厚吉合著	リビングストン	四十錢	六錢
宮川巳作著	使徒保羅	卅五錢	四錢
松本介石著	保羅の傳	五十錢	六錢
淡北生著	ワシントン	八錢	なし
戸川安宅著	ネルソン將軍	十錢	二錢
松村介石著	リンコルン	廿錢	四錢
四武雄著	ガーフィルド	十五錢	四錢
松村介石著	ナポレオン	卅錢	四錢
藤田潜著	ワルドミーヤ	廿錢	なし
酒巻鷹公著	拔都大王	卅錢	六錢
松永文雄著	ジョン、カルヴィン	廿五錢	四錢
高木壬太郎著	ジョン、ウエスレー	五十錢	六錢
神山閏次郎譯	彼得大帝	卅五錢	なし
松村介石著	ソクラテス	廿錢	二錢
坂本箕山著	高山彦九郎	七十錢	八錢
住谷天來譯	ヂョン、ラスキン	廿錢	四錢

發兌　東京京橋尾張町 振替東京五五三　警醒社書店　本郷春木町二丁目廿二　同支店

廓清會評議員

伯爵 大隈重信
井深梶之助
井深花子
服部綾雄
林歌子
羽仁もと子
本多庸一
本多貞子
徳富久子
嘉悦孝子
横倉秀子
高崎介藏
綱島佳吉
根本正
植村正久
浮田和民
小田川優子
山室軍平
矢吹幸太郎
山田彌十郎
山本邦之助
山室機惠子
矢島揖子
松村介石
益富政助
福永文之助
福島四郎
小崎弘道
小崎千代子
平岩愃保
江原素六
寺尾愛子
安藤太郎
安部磯雄
粟屋榮子
齋藤壽雄
湯淺治郎
三輪田元道
宮田修
三並良
島田三郎
島田信子
島貫兵太夫
日向輝武
日向きむ子
角倉賀道
元田作之進

廓清會本部役員

顧問 伯爵 大隈重信
會長 島田三郎
副會長 矢島揖子
同 安部磯雄
會計 山本邦之助
理事 矢吹幸太郎
同 山田彌十郎
同 益富政助
同 小崎千代子
同 島貫兵太夫

（いろは順）

前號正誤

前號發起人評議員の中に 廣岡淺子、山脇房子兩氏の名を列しあれども右兩氏は贊成者にして發起人に無之に付茲に謹んで正誤す。

（編輯室）

起てよ!! 憂世愛國の士よ起ちて此人道のために起せる軍隊の大運動に馳せ參せよ!!!

廓清 第一卷第三號 目次

奮へよ!! 正義博愛の人 奮つてこの人身賣買の蠻風を廓清せんがために勇戰せよ!!!

"PURITY"

Vol. I. No. [illegible]

廓清會會則

第一條　本會は廓清會と稱す

第二條　本會は本部を東京市神田區美土代町三丁目三番地東京基督教青年會館内に置き、追て支部を各地に設く

第三條　本會の目的は公娼制度を廢止し推して男女間に貞潔の德操を進むるにあり

第四條　本會は其目的を達せんが爲に左の事業を爲す

（一）毎月一回『廓清』と題する雜誌を發行すること

（二）時々適當の出版をなすこと

（三）公開演說會を開催すること

（四）帝國議會に公娼廢止の請願をなすこと

（五）當局官廳に公娼廢止の建白をなすこと

（六）公娼廢止の前後策を攻究すること

（七）娼妓其他醜業婦の救濟

第五條　本會に調査部を設け左の事項を調査研究す

（一）公娼に對する現代思想の研究

（二）遊廓其他花柳界の調査

（イ）婦女誘拐及び誘拐者

（ロ）醜業婦口入業者

（ハ）貸座敷業者及び其雇人

（ニ）娼妓の出身現狀及び成行

（三）公娼制度と法規との關係調査

（四）公娼制度と衞生との關係調査

（五）公娼制度と風紀との關係調査

（六）公娼制度と敎育との關係調査

（七）公娼制度と經濟との關係調査

（八）公娼制度と公權との關係調査

（九）外國人たる醜業婦の狀態調査

（十）外國に於る日本醜業婦の調査

（十一）内外醜業婦の沿革調査

（十二）藝妓酌婦其他類似の從業者に關する調査

（十三）不正結婚及び、蓄妾等に關する調査

（十四）婦人問題、貞操問題に對する現代思想の研究

第六條　本會は本會の趣旨を賛成する男女を以て組織す

第七條　本會に左の役員を置く

役員は總會に於て之を選擧す

會長　壹名

副會長　貳名

理事　五名

會計　壹名

書記　若干名

第八條　會長は會務を總理し、副會長は會長を輔佐し且つ必要の場合は之が代理をなす

理事は本會の實務を執り、會計は本會の會計を掌る、書記は本會の記錄及雜誌編輯の事務を擔任す

第九條　本會に調査委員若干名を置き第五條の調査をなす、委員は會長之を推薦す

第十條　本會に評議員若干名を置く

評議員は總會に於て之を推薦し、本會に對して必要なる助力を與ふ

第十一條　本會に顧問を置く

顧問は總會に於て之を推薦す

第十二條　本會に入會せんと欲するものは原籍、現住所、職業氏名、年齡を記し本部に申込むべし

第十三條　會員は會費を要せず

但し會員にして機關雜誌を購讀せんとする者は一ヶ月金拾錢宛を拂込むべし

第十四條　本會に要する費用は寄附金を以て之に充つ

第十五條　總會は毎年五月之を開き事務報告其他會務を議す但し必要の場合は臨時總會を開く事あるべし　（完）



論議

廓清會組織の趣意（下）

廓清會會長
衆議院議員　島田三郎

（七）東洋の大帝國は世界第一の淫亂國か

古語に、正義は國の繁榮を助け、不義は國の威勢を減らすと云ふ事がある。私は現代の事實に徴して明なるものであると確信する。日本國民は大帝國民になつたと云ふけれども、大帝國民の面目那邊にありや。日本は淫風國であると云ふのが外國人の我國を評する語である事を、茲に自白するのである。曾て私自分の子供の爲に東京の名所の本を購つて、それを開いて見た所、先づ第一にあるのは二重橋、次が靖國神社で莊嚴の氣に打たれるのであるが、漸次開いて見ると、最後に吉原遊廓を描いたのがあつた。是は日本國民が此

奴隷賣買を一の名物としてゐると云ふ觀念を有つてゐる事を拒む事の出來ない事實であらうと思ふ。近時、海外に於て排日熱の起る事は、愛國論者の極めて遺憾とする所であるが、此妖雲を拂はなければ日本の海外に於ける發展は覺束ないと信じてをる。亞米利加の新聞雜誌を見ると、排日熱に就て二の現象が表はれてゐるやうである。一は日本人は好戰の國民であると思つてゐるのと、一は風俗の上に一の大なる缺點があると、斯う信じてゐるのである。即ち排日熱は勞力即ち單に職業上から起つて來た反對のみに非ずして、一方日本人の風儀が惡い爲に起つて來たのであると曰ふ事も、中々有力なる說である。合衆國のユターと云ふ州、あれが中央政府の直轄であつた時、ユターにモルモン宗が跋扈して、それがアメリカに於て一つの問題となつた。而して遂にユターから出た議員を除名せしむるに至つた。ユターのモルモン宗徒は一夫多妻の風俗であるが故に、米國の良風俗を紊亂する虞がある。這麼處から議員がモルモン宗徒であつたから國法を議せしむる事は忍びざる處であると云ふので遂に無資格にせざるべからずと云ふ叫びが、如上の騷動を起さしめたのである。

（八）日本は世界における醜業婦の本場乎

然るに飜つて我日本に於ては如何、人間の身體を賣買し、是に淫行を强ゆると云ふ制度が現に存在してゐる。之は社會の風紀を根底より破る所の憎むべき制度であつて、之が一般の風俗を卑くし世界の多くの醜業婦を輸出する日本は醜業婦の本場となつて居る、此風俗打壞の根本たる公娼制度を保護するに至つては彼等外國人が之を見て憤慨するのも無理ならぬ事と思ふのである。私が假りに亞米利加合衆國にあつて之を見たならば、やはり彼等と同樣の觀念を抱く事であらう。我日本帝國が年々五十餘萬人づゝ增殖するとして是等

の人を海外に送るとしても、如是非難を受けてゐるのは實に國家の發達を望み、國運の繁榮を望む點から見て、怎うしても此非難を除却するに就て、我々は全力を傾倒しなければならぬと思ふのである。而して此排日熱は單に亞米利加合衆國のみに止まらず英國の殖民地たる加奈陀、濠洲等同盟國の領地も然りで、同盟國の人民もやはり此點に就ては困つたものだと云つてゐる。何故であるかと云ふと、日本より早く來る所の者は、手に胼胝がある勞働者にあらず、尊敬すべき識見ある紳士にあらず、我日本國の恥を晒す醜業婦であると云ふのである。

（九）日本民族發展上の一大弱點

私は恰度五日以前に、マレー半島から歸つて來た人に逢つた。此人は曾つて日清戰爭當時支那人の服裝をして、敵地に這入り込んで、我軍の爲に働いた人で名を言つても差支のない、宇佐穩來彥と云ふ人であるが、戰役後獨立の生活をせんが爲に、マレー半島に赴きゴムの栽培に從事し、數年の星霜を經て歸つて來たのである。其人は何の爲に歸つて來たかと云ふと、同島に日本人の勞働者を使ひたい爲に、又貯蓄機關の便がないので是を計る爲に、及び銀行設立に關する相談に來たのである。私等も實際今日の所、年々五十餘萬の人が殖えては、是を海外に發展させる方法を講じ、戰爭によつて領土を擴張するが如き事なく、到處歡迎せらるゝ良き人民が他國に赴いて、社會的平和の膨脹を希望するものである。で其人の語る處を聞くに、此マレー半島は或は合衆國や、濠洲や、加奈陀、と違つて排日熱がない。日本人に取つては實に殖民し易い好個の地盤である。主權者はマレー人で、英吉利人が其裁判などを助けてゐる。而して移住人の特點とも云ふべきは土地所有權が容易に與へらるゝ事で、其土地を開墾することも出來るし。且つ無稅である。産物は

豐富で、外から來るもので有税品はアルコホルと阿片位のものである。働きさへすればたしかに發展は出來るのであるが、日本人にはどうも缺點が多くて困る。其缺點とは、アルコホルを多く飲む事、貯蓄心のない事、其以上害をなすものは、日本の名物たる醜業婦がゐる爲め日本勞働者の發展を妨ぐるのである。之が爲め日本は淫風の國であると思はれ、凡ての婦人が玩弄物視されてゐると云ふ事は、海外發展上頗る遺憾とする所である。實に正義は國を高め、不義は國の勢を減ずるとはよく謂つたもので、其風俗の如何が國の盛衰に密接の關係ある事は疑ふ可からざる事實である。是非共吾等は内に於て正しき倫理觀念の養成に努力し根本思想の改革より推して一般の風俗改革に勉めなければならぬと思ふのである。

（十）　日本の娼妓は米國の奴隷よりも數等非人道的なり

奴隷制度は文明國に一般に禁ぜられて居る道義の念が高まつて此惡制度を一掃する爲めに戰爭までやつて之を全廢したのは米合衆國である。リンコルンが百代崇拜の偉人と言はるゝも此偉業の中心人物であるからである。今日我國人も奴隷賣買の名を聽て震慄するが、其事は公娼制度を是認する日本國民は奴隷制度より一層愧づべき公娼を有つて居る國民である。奴隷は其人身賣買自由束縛の點から愧づべく卑むべきであるが其仕事は農作である農作其者は卑むべきものでない、公娼は人身賣買自由束縛の點に於て奴隷であり其爲す所は淫行其ものである。此點から觀れば奴隷的農作と奴隷的淫行何れが尤も卑むべき歟。奴隷の身分は二者一樣で農作と淫行甲は普通の作業で乙は人倫の破壞的作業である。日本國民は此點に於て大に反省を要する。

（十一）　公娼制度と公權問題

租税、營業投票權此三者の關係に於て一大不合理の結果を生ずるのは公娼制度である、立憲國に於ては。承諾なしに租税は取らぬと云ふ。承諾なるものは如何にして與へらるゝのであるか。議會が之を與へるのである。租税を取る前には民の承諾を要するのであるが、多數の人民は直接に承諾を與へる事は出來ない。故に議員を選擧して、間接に承諾を與へる事になつてゐる。普通選擧を行はざる國に於て納税を選擧權の資格とする。而して人民中から税を取る時に於ては、若干の營業税を仕拂ふ所の人も此中に這入る。貸座敷營業者が公許せられて居る日本に於て彼等は普通人民と共に營業税を拂つてゐるのであるから、彼等に言はしむれば國法に參加する事は當然である。斯やうな方面から代議士を出さしむると云ふ事は、吾々に取つて極めて氣持がよくない事であるが、其筋に於て是を他の營業者と別に變つたものでないやうに見てゐるから仕方がない。吾々は道理に依りて咎むる事が出來るけれども、國法上尤むる事の出來ないのは已むを得ざる次第で、時としては彼等の投票し決定した法律と遵守しなければならぬことゝなるのである。諸君、是を以て大國民と言ふ事が出來やうか。大國民の價値が何所にあるであらうか。此のやうな不都合の問題は此以外にも澤山ある事と思ふ。乍併就中甚しいものから是を征伐しなければならぬ。

（十二）本會の種々なる目的

一方に於ては急なる所の外科的療治を施すと同時に、一方に於ては宗教々育其他各方面より、即ち内科的に療治を施して風俗を改革すると云ふ事が、根本治療策である事を信じてゐるのである。又最も卑しむべき畜妾なるものが、公然に社會に認められてゐるが故に、之に打擊を加へなければならぬ事も、廓清會の目的の中にあるのである。即ち我々は國の風紀の爲、風教、衞生、慈善事業等にも渉て風紀の廓清を計るべきで

ある、唯單に公娼問題にのみ奮闘するのではないと云ふ事を承知して貰はなければならぬ。

（十三）　廢娼の時機漸く近けり

此廢娼運動は、明治二十三四年頃から絶叫されてゐるが、今日も尚依然として存在してゐるのは歎息に堪へない處である。乍去吾々は之が爲に決して悲觀するものでない、寔に遲い進歩であるけれども、此間に於て社會は幾多變遷を來してゐる、唯是に對する所の活動が是迄或は怠り或は止んだが爲め、今日の結果であらうかと思ふ。即ち廢娼運動は今日始まつたのではない。久しき以前より唱道せられてゐる。米國宣敎師の故デフホレスト君が、十年前に此問題の爲、仙臺に演說會を開いて私も此運動を助けた、此事を市中に廣告し或は張紙した。然るに土地の或者は之に同意しないで張紙を剝がしてしまつた。それに基督敎信者であると云ふので、佛敎徒が反對を起した。そして反對の人々は其演說會場に入り込んで演說に妨害をし、遂に警察官の出張を見るに至り辛く靜まつたのである。數年以前、大阪で此運動のあつた時木下尙江君が此廢娼演說會に臨んだが暴漢が演壇に押上つてピストルを向けたとがあつた。然るに最近大阪の大火があつて遊廓移轉の演說を開いたけれども、頗る平穩で三日間引續いて大演說を試みたが、警察官の手を煩はす必要もなかつたのである。是は時勢が漸次に遊廓廢止に向はんとする傾きを示すのである。

今日尙且つ習慣に依つて公娼制度は必要であると思つてゐる人があるが、今日の敎育を受けてゐる青年は其麽必要は認めない、救世軍の山室大佐が言はれた通り、今日に於ては却つて彼等が守勢の態度を取るに至つたのである。降參の態度を取るに至つたのであると申されたが、實際其通りで、吾々の樹立せる旗幟に燦爛たる光輝を添へ、凱歌を奏する期の近き將來にある事を確信するのである。

道樂者への强意見

救世軍大佐心得
本會評議員　山室軍平

遊廓が何故繁昌するかといふ一つの理由は、言ふ迄もなく、そんな所に行つて道樂をする者があるからである。それ故私共は一方に於て公娼廢止を叫ぶと同時に、一方に於ては世の遊廓などへ道樂に出かける人人に向ひ、其不品行をやめて堅氣な人間とならんことを、熱心に警告せねばならぬ。

西洋の人の言葉に「放蕩は地獄に行くの近路也」といふことがある。凡そ人が惡事を行ふて此世のみかは永遠の滅亡に到る途は多くあれ共、放蕩するほど速に墮落滅亡に到る途はないといふの意味である。昔サムソンは驢馬の骨をふりまはして壹千人を仆したる勇士なれども、婦人の慾に迷はされて敵の捕虜となり、ダビデは敬虔なる君子であつたが同じく色慾の惑より凶殺の大罪を犯すに至つたといふことである。舊い書物に「それ故に色といふ字は刀を書て下に巴と書く。これは蛇が物を呑みたる形にて我慢惡事の萠である。家の斷絕も多く色慾より起る。それ故糸遍に色といふ字を書て絕へると讀む也。これに色情の惡事たるをよく知るべし」と、此樣にいふてある。舊い言方だが其中に尙否むことの出來ない道理がある樣に考へらるゝ。格別に人が遊廓に足を踏込んで無益の金錢を濫費し、惡い病氣を受けて健康を損ひ、學問は荒み、事業には穴があき、世間には信用を失ひ、家庭には風波を引起し、自分には德義の念が破れた處から以來眞面目に物事を考へたり、又は行ふたりすることが出來なくなつて終生を誤り。而して相手とする婦人はといへば、金

錢の爲に心ならずも買占められて居る事實上の奴隷を、貸座敷業者だの其雇人だのといふ者の力を假りて、いやが應でも強姦する樣なことになつて居るのである。斯くして自分自身を害ひ、人の娘を辱かしめ、社會を毒する道樂者となつて、それでも悔ゆる事を知らないといふ諸君は又何うい ふ愚昧者であるか。昔はソロモンが當時の青年輩を戒めたる言葉の中に次の如く言ふて居る。「汝の心を淫婦の道に傾くること勿れ、又之が徑に迷ふこと勿れ、蓋彼は多くの人を傷けて仆せり。彼に殺されたる者ぞ多かる。其の家は陰府の道にして死の室に下りゆく」と。それ故遊廓へ足を運ぶのは人間の資格に死んで一箇の辨へなき動物に成り下がることである。畜生道に墮ちゆくものと謂はねばならぬ。即ち或人が肉體の死んだものは谷中に行き、靈魂の死んだものは吉原に行くといふたのは、實際を穿つた說であると思ふ。然らば人は何故好んで然ういふ惡しく且罪深い穢れた行に身を委ねるのであらうか。なぜ今時遊廓なぞへ足を運ぶ馬鹿者があるのであらうか。私共が昔し一人々々の道樂者に就て其何故に遊廓へ足を運ぶかといふ申譯を聞くことが出來たならば、大方こゝに四種類の異つた返事を聞くことかと考へる。

◎實際上遊興するこいふものあり

其第一の人々は實際上止むを得ず道樂をすると言ふものである。どうも友達との關係上餘儀なく放蕩をするのであると、申わけをする人々である。而してこれは實際上あり得べきことである。賣卜先生糠俵といふ書物に、乞食と問答の一條がある。即ち次の如し。「翁の曰く如何さま乞食にも大抵ではなれぬと聞く、深き傳授もあるや如何。乞食身あがりして曰く、格別深き秘事口傳もおはしまさず、唯友を擇むにあり。善友に交はりては仲々非人にはなれぬもの也。惡しき友を友として酒をのみ習ひ、うそをつき習ひ、窮屈なことを

嫌ひ夜遊びを好き、小博奕をうち覺え、第一親の言付をきかぬやうにし、叔父叔母の異見を用ゐずに乞食にならねばならぬ様に身を持てば、終には乞食となるものなり。奉公人も同じ手段、最初は悪しき友に交はり、先づ新地表の字の味を覺え、蔭日向を第一にして、小宿にては買ひ喰もならひ、三絃も些つくりばかり習ひ、次第に泥に泥がつき、上達するに從ふて、主人番頭の目をぬきおぼえ、受人に預けられても耻を耻と知らざれば、直さんとする心なく。宿の叔母までむかう欺し、後にはたゝずむ所さへ、何んにもなしのつんつるてん、これでも乞食にならずんば天か時かと疑ふべし」とある。何んと悪い友達、良くない交際の弊害を穿つて至れり盡せりではないか。私は久しき以前或時岡山孤兒院の石井十次君が孤兒への話を傳聞したことがある。其言葉に「諸君は同じ朋友の中にも二種類の相違のあることを知らねばならぬ。即ち一つは月を二つ列べて書く朋友にて、今一つは蜂の友と書く蜂友である。前の分は字で見ても分かる様に眞に氣の合ふた、つきあふて益になる友達である。併し乍ら次の分は蜜蜂が蜜のある間のみ花に來て、うまひ汁をすふ如く、一緒に酒を飲み、道樂をなど、目の先の樂みをすることの出來る間のみ、繁け〳〵と往來をなし、それが出來なくなると直ぐに何處かへ行つてしまふ。或は後足で砂をかけて置て、さつさと立退いてしまふ。世には此ういふ蜂友が至つて多いから、油斷をしてはならぬ」と云ふことであつた。依て思ふに一緒に遊廓へでも行かねば、つきあへない様な友達は所謂蜂友である。うまい汁のすへる間のみ親しくする友達である。まさかの時には相談相手になれない所かさつさと何處かへ逐電してしまふ連中であることを知らねばならぬ。昔管仲鮑叔の二人は珍らしい親しき交りを結んだ人達であつたと言へど、私共は未だ此二人の者が一緒に放蕩して後に、さういふ親しい間柄になつたといふ話を聞かないのである。又英國にてはコブデン、ブライトの両人が世にも稀れなる交りをして居つたといへど。それとて私共は此兩人が一緒に登樓して、それから然ういふ

仲好になつたといふ消息を聞たことがない。「愛は潔からざれば深きこと能はず。」あぐらをかいて淫らなことを話し合ひ、又は一緒に遊興して始めて親友の交りが出來ると思ふものは愚人である。古語にも「晏平仲よく人と交はる、久うして之を敬す」とあり。眞の朋友は親しんでも狎れ侮ることのないものである。いづ〳〵迄も相尊敬して變らざるものでなくてはならぬ、ダビデとヨナタンとは身分も違ひ、利害の關係も相反對するものでありながら、數千年の後迄、親友の鑑として傳へられて居るわけは、彼等が人間以上の神を見上げ、神かけて清き交はりを取結んだからである。一緒に道樂せねば交際の出來ない樣な人間は、あつて甲斐なき友人である。友人として許すに足りない惡友、又損友であるから、斷じて然ういふ連中と絶交し、そんな者の仲間はづれになつてしまふたが宜しい。私共は酒をのまず淫らなことを行はない處か、口に言ふともせず麁茶一ぱいにて、腹心を打あけて話し合へる樣な人を擇んで友とせねばならぬ。然ういふ人々のみ眞に友人として許すに足る人物である。其他の一般の交際に至つては、角の立ぬ樣に挨拶して、惡所へ行く樣なおつきあひは之を斷つてしまふが宜しい。何あに、其氣にさへなれば、決して出來難いことではないのである。

◎快樂の爲に遊興するといふものあり

第二に又快樂を求めて遊廓に足を運ぶといふ者がある。一週間餘り勉强して居つたら、くたびれたから一寸浩然の氣を養ふ爲に遊びに行くといふ輕薄なる青年があり。或は終日の勞働に疲れて家に歸つた所で些とも面白いことはないから、鬱晴らしの爲め放蕩に出かけるなどいふ商人、職工の輩がある。固より人間は一生涯苦んだり、心配したりするばかりでは、過せ難いものであるから、人相應に何等かの快樂を求め、息

ぬきをするといふに、私共とても別段異存はない。併し乍ら問題は唯放蕩が果して人に本統の樂みを與へる方法か、又遊廓が果して人間に眞の鬱晴らしを求むべき場所であるかといふ一點である。その事に就て昔の人の歌に「足元の輕さ重さは吉原へゆく提灯の歸る釣鐘。」とあり。後先の考へもなく浮か〳〵と惡所へ通ふ人間の、歸つて來る時の馬鹿らしさ加減といふものは幾許であるか。「嗚、馬鹿なことをした、歸つたら主人に何んと挨拶しやう。親兄弟には何んと申譯をしやう。故郷の老たる父母が私の此んな眞似をして居ることを知られたらば何う御心配になるであらうか。此んな眞似をして居つて、私は果して人一人前の人生を送ることが出來るのであらうか」と。それでも諸君は放蕩が樂しいものだと言ふことが出來るか。歌に又「麥飯にぬか味噌汁は諺に、傾城かひの守本尊」又「いにしへは何某、今はなにもなし。」など〻あり。道樂者の身の行末は事業の失敗である。身代の破滅である。學問も、目的も廢れて、路頭に迷ふ身の上となり、其果は詐欺か、泥棒か、無理情死くらゐが關の山である。それ故に遊廓は苦勞難儀の一手販賣所である。零落、失敗、犯罪、自暴自棄、さては自殺、心中などの專賣所であると謂ふことが出來る。それを何うして遊廓に浮かれ込んで、そこで快樂幸福を見付くることの出來やう筈がないではないか。眞正の快樂滿足は清き品行を保つ人の上にある、浮いた行は見向きもしないで、忠實に其職分を務め、時節到來したならば、淸い理想と正しき操とを有する婦人を娶りて、純潔なる一夫一婦の家庭を營む人の上にある。「たのしみは夕顔棚の下涼み、男はて〻ら、女はふたのして。」亂暴な樣だが味のある歌であると思ふ。或時波斯の王樣が英國に御漫遊中、有名なるグラッドストン氏が其金婚式を祝はれたことがある。すると王樣はグラッドストン家の純潔幸福なる家庭の有樣を見聞して羨ましさに堪へず、言はる〻樣、「嗚、朕は一生の間に五十人の妻を持ち、グラッドストン氏は五十年の間に一人の妻を守られた。而して眞の幸福は朕が方にはなくつて、全くグラッドスト

ーン氏の方にあつたのである」と。芭蕉翁の句に「鰒汁や鯛もあるのに無分別。」放蕩淫亂の樂みは鰒汁である、一時喉元を過ぎる間、おいしひ氣がするかも知らねど、目に見えて其後腹が苦がる。清き堅氣なる生涯は鯛の味噌汁である。おいしひ上に後腹の痛む恐れがない。諸君は遊廓に快樂を求めるといふ樣な見當違ひの大不心得を行ふ、大馬鹿者となつてはならぬ。（未完）

海外同胞の醜業

廓清會理事　島貫兵太夫

◎南洋に於ける本邦醜業婦の眞狀

四十三年一月、在外帝國領事館調査の馬來半島在留同胞の職業別を見るに、各地何れも多きは、妓樓である。之を細別すれば先づシンガポールには、妓樓が九十二軒あつて、其娼妓が四百十五名、マラッカには妓樓が九軒、娼妓四十三人、ピナンには妓樓が二十六軒で八十四人の娼妓が居る。ネグリスミラン州のセレンバン市には、妓樓が十九軒、娼妓八十五人、又セランゴー州にはコーランポ市を重なる所として妓樓が九軒で六十一名の娼妓、ペラ州はイッポー市を重なる所として妓樓が三十三軒、娼妓が三百六十人であつて、是等各地の妓樓を合計すれば百六十二軒、娼妓が一千〇四十人ある。シンガポールを中心としてザット斯くの通りである。更にシンガポール帝國領事館以外を調べたならば實に大變な數に上るのである。嗚呼之れ實に

驚くべき者ではないか。これが在外同胞の商業であつて、而も各地に於て領事をも動かす勢力を有つてゐるといふに至つては驚嘆せざらんとするも得ないのである。

◎如何にして海外に出稼ぎするや

是等の多くは天草邊から出掛けて往くのであつて、此邊一帶女の海外行と聞けば直ちに娼妓となる事を意味して居る。而して彼等は多くの黄金を積んで、人生の後半生を安樂に暮す事が出來ると信じて居る。されば思慮淺き女の子は箱詰や石炭庫の奥に潜んでも、如何なる憂き艱難を嘗めても、海外即ち南洋醜業婦輸出分配の大本營なるシンガポールを理想の樂園の如くに信じて往かん事を希望して居る。淺間しいとも何とも言ひ様がないと共に其無智を憫まずには居られない。前述の如き多數の婦女の續々渡航するは南洋から來て誘拐するものもあり、又は之を女衒的にやるものもある。或は箸にも棒にもかゝらぬあばずれ女が、多くの可憐なる少女の膏血を絞つて稼がせた。錢をかきさらつて來ては故郷の醇朴な田舍者に示すが爲である。誘拐せられたる少女は或は老人の娘と化け、又は大連の親戚へ往くと稱へ、或は夫婦者と云ひ、或はコックと化けて、門司の嚴重なる檢査を逃れてからは、彼等はモウしめたものにして、大願成就と舌を出して警察官の間拔け奴と笑ふのである。如何に國辱だからと云つても議會へ矯風會から何か提出せられても、ソレは彼等に聊かの苦痛をも與へざる事は石地藏の胸に蚊が留つたと同様である。蓋は國士と稱する連中に醜業婦はエライ帝國々威の到らぬ處にも彼等は盛なる勢力を振ひつゝある。而して何十萬といふ大金を異人の鼻下長連から絞るのだから國益を計つて居るといふやうな譯、それが年々増加して中央亞細亞迄も進んでゐて、帝國外務省が理屈計りを並べてチツトモ國威を揚げざるよりは萬々勝れりで、彼等は無意識に國家の爲

に盡して居ると媢るからで、誠に呆きるゝ外はない。

◎海外醜業婦の運命

然ども彼等海外醜業婦是認論者は更に其眞相を知らずして之を云ふが故に、元より見當違の賛成論たるを免れない。實際に於て彼等醜業婦なるものは決して成功して錦衣（言ひ得れば）を故郷に飾るものは百人に一人もない。多くは墮落怠惰の生活に慣れ、男を弄んで一生を自墮落に終つて仕舞ふ。よし流行妓としても彼は嬪夫といふ一種の寄生虫の爲に其收益の全部を吸收せられて、一文も彼の身に殘る事なく、あるものは唯娼賣道具の衣類位にて、誠に憐むべき實情である。最も此嬪夫は乾度破落戸であつて、其女の無理强迫の情夫、若しくは情意投合の情夫にして、日夜賭奕を事として嘗て正業を事とせず、唯娼妓の危險が迫つて來た時に談判をするか、喧嘩するかして、飽く迄も娼業を營ましめ、己は其惡錢を着服してゐるのである。殊に醜業婦には惡病はつきもので、彼等は多くは爲に不具となり、日蔭者となり、仕事も何も出來ぬものとなつて慘死するか、運のよきものは辛うじて故郷に歸り、貧しき父母の厄介になるのが定まれる運命である。況んや此等醜業婦が海外から黄金を載せて歸るとしても、其中には同胞同志の汗血をも含むのである。同胞は同胞の娼妓によりて錢を失ふのみならず、再び起ち難き迄に大なる創痍を受くるもの幾人あるかを知らざるに於ては、得る所の到底失ふ所を償ふに足らざるは勿論であらう。

◎公娼制度と海外醜業婦

1－178 今や北米の各地シヤトルを始め、フレスノーの如きは醜業婦驅逐策の講せられつゝあれば、或は北米は根

治するの希望なきにあらざるも、布哇及び其他南洋各地を始め、苟も我が同胞の發展する所より此醜業婦を驅逐し得ば、帝國の國威更に一層高まるのみならず、其の經濟的に道德的に我同胞の得る處、實に甚大なるべきは、炳として火を睹るよりも明である。翻て顧ふに此等醜業婦の海外發展は母國に於て公娼を許すの反響にして、本國に於て公娼を許可せるが故に、海外輸出を禁ずる事が出來ないのであつて、本制度の波及する弊害は測り知るべからざるものがある。本國の公娼制度が廢止されて、日本が公娼の國でない、從つて海外に來るものは實に國法を破れるもので相手にせられ得る代物でない、と萬國に知れ渡る時は我日本の品位はドレ位高くなるか知れないのである。私は玆に賢明なる婦人諸君の覺醒を乞ふと共に、紳士諸君の御盡力を切望して止まぬのである。

公娼は野蠻思想の代表なり

廣岡淺子

◎國史の上に表はれたる我國の女性

公娼廢止問題に就ては、今更私共が喋々と述べ立つるまでもなく、最早何人も反對の餘地は無い事と存じます。併し其の實行に至りましては、容易の事でありません。幸に婦人矯風會が率先して此の運動に當り、御老體の矢島會頭始め會員諸氏が、其の他の御婦人方と共に熱心御盡力になつて居りますことは、國家の爲

めに慶賀に堪へず、又私共女子が深く感謝致すべき事と存じます。

かゝる黒白見易き問題が、長年の間解決致しませぬのは、社會の惡習慣とは申しながら、亦我々女子が無學文盲にして、人道の何たるかを解し能はざりし弊も與つて力ありと存じます。何故我が國の婦人が然く無智であつたか、私は之を、歷史と時代思潮に依て考へて見たいと存じます。

我が國史を繙いて見まするに、上古に於ては、智德は暫く措き、婦人の勇氣が非常に逞しかつた事は、神功皇后が遠く外征の將として御渡韓ありし一事が、明らかに證明して居ります。藤原氏時代に至り、世は文弱に流れ、婦人の勇氣は大に衰へ、同時に女德も亦墮落の傾向を來しましたが、それでも紫式部の如き博學にして高潔なる女子が出ました。彼れが國家を憂ふる慷慨悲憤の熱烈なる情は、即ち一部の源氏物語となつて現はれました。源氏物語は、決して所謂稗史小說の類ではなく、當時の政治や風俗を諷刺したものであります。一條天皇が嘗て式部を日本紀の局と稱譽せられたのも決して偶然でなかつたと存じます、藤原氏亡び、源平時代より豐臣氏時代までは天下亂世の繼續で、婦德は地に墮ち、國家を思ふ烈女は實に乏しくなりました。彼常盤が貞操を破つた事は、人道より見るも、女德として考ふるも、如何にも恥づべく、卑むべく、排斥すべきであるに、而も之を貞女と譽囃すが如き現象を生じましたのは、全く道德の標準を誤つたものであつて、慨嘆に堪へざる次第であります。

◎德川時代の誤れる道德思想

德川氏に至りましては、三百年の太平を繼續したといふので、歷史家も一樣に此の時代を謳歌いたしますが、併し、此の所謂太平なるものは、民を愚にして僅に外面の無事を保ち得たに過ぎません。今日文明の智

識を以て、宇宙の眞理を標準として觀察致しますれば、德川氏治世の間、如何に我が日本國を退歩せしめ墮落せしめたかは、明々白々であります。此の時代の女德の標準としては、貝原益軒の女大學即ち三從七去說でありますが、是れ實に、男子が利己我儘の議論であつて、無智無氣力なる女子を之に服從せしめ、之を以て女子の美德と稱したのであります。

三從七去說の如き男尊女卑の東洋思想は、終に人道の何たるかを解し能はぬまでに國家を野蠻化してしまひました。男子が我儘の鑄型を拵へて、彼等の情慾の奴隷とまでに女子を陷れたのである。而して、女子をして、生命よりも大切に守るべき操を賣らしめ、無智なる女子は、之をさまでの醜業と考へず、親若くは夫の爲めに甘んじて之が犧牲となり、世間は之を目して孝女貞婦と稱ふるに至つたのである。かゝる虛僞の敎が、今日の如き奴隷的人身賣買の慘狀を實現せしむるに至つたのであります。

然るに、神の惠とも申すべきか、五十年前ペルリ提督が我が國の門戶を叩き、國民をして長夜の夢より覺めしめ、明治の世となつては、泰西の文物各方面より輸入せられ女子も科學の必要を認むるに至つた。爾來物質的文明は駸々として進み、戰勝後一等國の班に列しましたのは、我々が最も慶賀すべき事であります。然しながら。未だ人道の根本たる靈的生命の基礎が築かれて居りませぬ爲めに、二十世紀の今日、尙この人身賣買の醜業を廢する事が出來ないのです。是れ全く東洋の野蠻思想が未だ勢力を維持して居るからで、實に我が國の大なる恥辱であります。私は斯の如き野蠻思想の代表たる公娼が一日も早く廢止せられ、精神的にも一等國たる實を示すに至らん事を切に祈るのであります。

◎排日論の一因

先頃私は、朝鮮滿州地方を視察いたしましたが、それに就ての所感を序に一言したいと思ひます、歐米の文明諸國は、殖民地の開發に第一宗教の力を用ひます。而して其の任に當る人々を見るに、國家若くは人種の觀念などを超越したる高潔なる大人格であつて然も仁愛に富める人々が、教會學校又は病院等にて人道の爲め一命を捧げ、生命ある宗教の力を基礎として教導しつゝあるのです。然るに、我が國は如何でせう殖民地には、第一に淫賣婦が出現して言語道斷の醜態を演ずるではありませんか。是と彼とを比較すれば、實に天地霄壤の差あるを認識せざるを得ないのである。彼の米國の排日論の如きも、畢竟是等の醜行を厭ふより來る結果と思ひます。之を思はずして、徒らに米國の野心を疑ひ、果ては日米戰爭などいふ如き不吉の言を弄するのは、取も直さず小人の心を以て他を付度するものであつて、自分の卑しい事を告白するのと同一であります。

◎廢娼の擧は確に女子の一進步

故に我々女性は、此の際大に覺醒して、斯くまで遲れたる我が國の思想を進め、汚れたる風俗慣習を改め、男子の誤れる我儘を矯正する責任を自覺して、大に人道的國威を輝すやうに致さなければなりません。婦人矯風會が、率先して廢娼の擧を企てられた事は、確に女子の一進步であつて、國家の爲めに賀すべきであります。たとひ今後如何なる困難が生じても、屈せず撓まず懈れて後已むの決心を以て御奮鬪あらんことを希望いたします。尚高德ある紳士及び正義に强き青年の方々が、可憐なる女性の爲めに滿腔の御同情を寄せられ、此の擧を御助成あらん事を切望いたします。（大阪廢娼演說會にて）

廢娼問題に對する意見

山脇高等女學校長　山脇房子

△奴隷問題以上に殘忍暴逆なる事

全體娼妓と申します樣なことは、私共婦人の口に致しますのも汚らはしいと存じます。又其者に付て彼是れ考へたり致しますことも、不潔であるといふ考を持つて居つたのであります。所が先年此の憫む可き者を斯うして置いてはならないものであるといふ事から、矯風會の方々が色々御寄合になつて、救濟法をお講じになりました。其時色々私共もお話を伺ひまして、斯ういふ哀れな人達の内情を能く承りまして、それから以來は誠に可愛想なものだ、どうかして救ひ度いものだ、斯ういふ考を絶えず持つて居りましたのであります。

世の中には不正な事を致します者、又惡事を働きます者も澤山ございますが、皆大抵自分の心からしやうと思つてする事であります。例へば泥棒が物を盗みます。それは色々事情がございませうが、自分で盗まうと思つて盗みませんければ出來ませぬ。其他正しい事ばかりをして居ります時は出世が遲い。或は多くの收入が得られない。さういふ樣な事からして、色々惡い事を致す者がございますけれども、是も皆自分でしやうと思つて致す者計りであります。けれども獨り此の娼妓と申します者は、大抵若年の者が多うございまし

て、父母の保護の下に居る。其親權者が當人に相談なしに、否や應なしに賣買の約束をして仕舞つて、當人には知らさずに其所へ連れて參ることもあるさうであります。當人が初めて此事を知りました時に驚きまして、どうかして其逃れる道を講じたいと致します。色々方法を講じましても、どうしても逃れる事が出來ぬ。時には遂に自殺をしたといふ樣なことも、新聞紙上で見る事がございます。此事は奴隷問題以上に人權を無視して殘忍暴逆な事と申しても宜しいと思ひます。

△惡いといふ事すらも知らせぬ罪

其の死ぬ程辛いこと、イヤな事を強ひてさせます者は誰かと申しますと、それは最信頼する處の父母でございます。親が最愛の子に向つて斯ういふ事を強てさせるといふ事は、どういふ事でありますか。常識では考へられませぬことでございます。色々事情もございませうけれども、大抵斯ういふ事をしなければならない。其事情を探つて見ますと、其親が酒色に耽つた爲に借財が殖えましたとか、或は懶け者であつて生計に困難の爲にさういふ事をするといふ者が多い樣であります。娘も可愛くは無いことはありませぬけれど、其娘を可愛いといふ情を割きさへすれば、其事が少しも惡い事とは考へませぬのであります。甚だしいのはあの人は自分の娘を賣つて他人の難儀を助けた、實に感心な人だと言つて賞める。又あの子は感心な心掛けの子で、自分の身を苦界に沈めて親を助けた、實に感心な事だと賞揚して居ります。是は詰り其事が惡事をしたといふ事を知りませぬからであります。故に是は惡い事だといふ事を知らせるのが一番只今に於て大事な事かと思ひます。惡い事と思はないからであると思はれますことは、社會は之を許して居りまして少しも咎めませぬ。さうしてそれを致します其場所はどういふ所かと申しますと、市中の目立つた所にございます。

其建物が而も大變に立派なもので、俗に不夜城と申しまして、夜も晝の樣に盛にしてある所で、殊に吉原の樣な處は東京見物の名所の一つになつて居ります、只今承りますと、帝國ホテル抔へ參りました外國人も見物に參るさうであります。田舍から出て來た人も、吉原を見て歸らなければお話が出來ない。お國へのお土產話に一つ吉原を見て行かう。それ程見るべき所であるといふ觀念を持つて居ります。であるから、其處に居ります者が、自分が惡い事をしたといふ感情は一つも持たぬのであります。故に其事が人道に外づれた良くない事であるといふ事を知らせるのが、一つの方法だと考へます。

△奴隷廢止運動も困難なりき

勿論世の中に惡い事や不正な事を全滅することは六ケしうございます。併しそれを公に許すと申す事は、多くの人の誤解を招く本であります。惡い事は早速禁ずるのが當り前であります。殊に此の公娼制度と申しますやうな事は、敗德非道な事であるといふは誰でも承知して居る事である。承知して居つて何故之を止める事が出來ませぬか、習慣といふものは浸込みますと、之を禁ずる事は中々出來ぬものであります。御承知の奴隷廢止運動抔も中々六ケしうございまして、彼のストウ婦人抔が其事に運動された時には、演說會でもございます時には、其場所に來て罵詈讒謗をして種々妨害をしてトウ〳〵其會場を燒拂つたといふ事でございます。尙其住宅に押掛けて、色々妨害を加へたけれども、さういふ樣な事を能く忍んで、長い間運動をされました結果、トウ〳〵奴隷を廢止する事が出來ました。皆さん方がどうぞ協力して、熱心に御贊同になりましたならば、必ず此の廢娼運動が成功する事が出來ることは信じて疑ひませぬ。（東京に於ける公娼問題婦人大會に於て）

賣淫制度の改善

法學博士　寺尾亨

板垣伯爵監輯の下になる『社會政策』は法學博士寺尾亨氏の標題の如き論文を載せて居る。博士の議論は大體に於て吾々の意見と一致して居る。博士は或は吾徒の廢娼論を以て迂濶なる議論として隨分嘲罵を逞しうして居る處もあるけれども、それは氣の毒にも我々の廢娼論ではなくて博士の想像せる廢娼論である。但し十人十色、吾徒と博士と見る所を異にするもの全然ない譯ではない。其故に實は本號に於ては之に對する吾人の批評を載せやうと思つて居たが、日夜公務の爲め忙殺せられ、之をものする暇を得ず、遂に玆に只博士と吾人と意見の同じき點のみを拔載することにした。（記者）

（一）

絶東に國を立て、而して自ら君子國を以て任ずる我邦家の現狀や如何。倫理道德壞廢して社會の綱紀全く地に墮ち、上は貴族富豪の徒より、下無智の勞働者に至る迄、淫逸放肆遂に底止するなきの有樣である。噫これをしも君子國の面目と謂ふべきか、眞に憂國の士たるもの這般の光景を眼前に見て如何の感があるか、國の上下を擧つて斯ならしめた原因は抑も那邊にあるか、教育宗教が其權威を失したるが爲なるか、或は又一國の政治其當を得ずして、何等か社會に缺陷を生ぜしめたるに因るか、種々の原因があらうが、中に就て尤も明白にして何人も異議を挾まざる所のものは、實に藝娼妓の跋扈である。

然り藝娼妓の跋扈跳梁は、今日我國の風敎を亂し、個人の人格を傷け、絶東の君子國をして到底文明國の面目を全うせしむる事が出來ないやうな有樣に立ち到らしめたのである。故に此淫風の源たる賣淫制度の取締、即ち其改善は國家當面の緊急問題である。（中略）

大凡人類は他動物に優れたる靈智を有するものなるが故に、本能の衝動も之を抑制しやうと思へば抑制する事を得るのである。則ち人類の尊嚴は此の刹那に於て發揮せらるゝのである。然るに現今滔々たる淫風は妙齡の婦女子を驅りて淺間しくも賣淫によりて虛榮心を充さんとし、或は又之によりて生活を支へんとする傾向以外に、猶ほ古來より我社會に於ては、忠孝の眞の意義が誤解されて居て、家

の爲め、親の爲に一身を犧牲にしても淫を鬻ぐことを、寧ろ孝道に叶ふたものとして、推奬した傾があつたので、是等も亦今日の病根の遺傳的一因となつて居る事を否認する事が出來ないのである。

然れども賣淫問題は啻に我國に限らず、世界各國に於て均しく歴史的原因を有する問題であつて、各國民の生活と離るべからざる關係を以て居るのである。即ち其存立は理論に於て許すべからざるも、一國の政治民情の實際に於ては、直に之を排斥する能はざる事情がある。故に吾輩は我國の藝娼妓は理想として全廢を望むも、而も事實に於ては其の到底不可能であることを遺憾とする。即ち吾輩が全廢論に左袒する能はずして、其制度の改善を望む所以は此處に在るのである。（中略）

《二》

凡そ家を建てんとする者は、便所の位置に就て、周密なる注意を拂ふを普通とする。而して建築圖案が成立して實行した後も、考の足らざりしを惜む場合の屢々ある事を吾輩常に見聞する。彼の便所といひ、塵捨場といふ者は必ず家の必要上なかるべからざるもので、若し此れを否認するが如き事あらんか其害毒の及ぶ所實に驚駭一家の風紀と衞生との上のみに止まらずして、社會公衆が蒙る迷惑の程度や深甚なるものであるであらう。此の如き社會にも裏面の汚穢を處置する爲に、諸種の設備が必要である。今之を藝娼妓即ち賣淫婦の場合に於て見るに、彼等は社會の大なる便所であると共に、塵捨場たるものである。意識的、無意識的に、藝娼妓なる特別の階級を產み出したのである。

然れども吾人人類は其天性として不淨よりも淸潔を尙ぶ、故に便所を家の表面たり、主關たる所に設くるものはない。即ち其れかくの如く今日の必要は成るべく汚物の存在を尠くし、之を其の大害なき箇處に置きて、之より生ずる人格の侵害を防止し、風紀の振肅衞生の擴充を期するにある。（中略）

《三》

廢娼論者のいふが如く、日本は驚く可き賣淫國たるに相違ない。然れども少しく各國の實狀に眼を放つときは彼等醜業婦が執れる方法に就てこそ、國によつて多少の差はあらんも、下等社會の婦人の中には、淫を鬻ぎ世を渉る者の各國とも多々あるの事實は枉ぐべからず。而して之を禁遏するの難きに於て各國ともに同一の理由を認むるのである。即ち娼に公娼、私娼。公娼に集娼散娼の區別はあるが、而も物件を代償として、淫の賣買により性慾を滿足せしむる暗黑面のある點に於て東西其軌を一にするのである。

賣淫は社會の止を得ざる要求である。故に適當の方法の下に弊害を可成少からしむべき方式の下に行はざるべからず。而も之を設くるや止むを得ずして、此の設備を爲せるものとの觀念が常になく

てはならぬ。今我國の娼妓即ち公娼に就いて之れを見るに、彼等が身體の拘束を受け、殆んど奴隷に優る殘酷なる待遇をうけつゝあるは、人道上許すべからざる事で、如何に親の爲夫の爲家の爲とは言ひ乍ら、眞の契約の意志なき婦人を捉へ、無法の契約を履行せしむべく強制するは不都合な話である。而も債權者の側から謂へば契約は之を履行せしめんければならぬ。於是乎、動もすれば不履行者若しくは不履行に關する賠償問題といふ法律上の事實問題が發生する。然るに從來は藝娼妓及び女工等が、年限内の契約を破つて遁走を企圖した場合は、警官等多くは雇主の肩をもつて、竊かに藝娼妓及工女を虐待したが、近頃に至り自由廢業なる便法行はれ、監督官署亦之を許可することゝなつた。之れ畢竟意志と履行との原則が明白なるに至りたる結果で、即ち社會の一進歩である。(中略)

賣淫婦の取締にとつて尤も困難を感ずる問題は人權の侵害に渉らざる事である。爲政者は返すぐも是に注意して人格無視の事實なきを期せねばならぬ。醜業婦たりとの理由により、一定の地域に拘束も啻ならざる狀態の下におくは、許すべからざる惡政の罪人である。しかも彼等の人權を蔑視せざるやうにするには、今日の貸座敷制度の根本を革め、全然之れを自由制度としなければならぬ。即ち樓主なる資本家が、多額の金員を出して賣笑婦を雇入るゝが如き、或は又惡桂庵、惡口入業者の辛辣なる誘拐手段によりて身を沈めしむるが如き、事實上の人身賣買に渉るが如き、現在の制度は宜しく廢止して、綿密なる出願規則の下に生活上止むを得ざる婦人をして、個人の自由意志によりて出願したりと認むるものに就て營業せしむることゝしなければならぬ。

大凡物には一利一害の伴ふものなれば、幸にして吾輩の新案に依りて、自由制度の下に賣淫が行はるゝと假定しても、果して現在の賣淫制度より生ずる弊害の全部を杜絶するを得るか、否な、又他に代るべき惡果を貽さするかは、充分研究の餘地ありとするものであるが、而も現在に優るべきに於ては呶々を要せざるべく考へらるゝ。而してこの自由制度の下にありては、各人は自由に隨所に於て營業する事を得べきを原則とするも、是を監督し統括する必要上、或は營業者を或地域内に集中せしむるを便とする場合もある。而も之れ吾人の自由を拘束する譯ではない。彼の或種類の興行物が警察取締上より或地域に限局せらるゝと同一のものである。

《四》

然るに何ぞや現時のそれは其監視益々密にして密航婦益々多き怪現象を呈しつゝあるのである。於是我輩は當局者が偏狹なる見解の爲に、自然的なる婦人の移出が人爲的に制限せらるゝ結果、人權上由々敷犯罪と道義上、人情上、見るに忍びざる殘虐なる行爲が、惡辣なる誘拐者の手によりて可憐の少女の上に加へられつゝあるを悲しまねばならぬ。彼等の受くる虐待は内地に於ける公娼が

樓主より受くる虐待に勝る事遂してである。即ち少女誘拐者は極めて巧妙なる手段をもつて彼等少女の密航を強い、辛うじて汽船に乘るや、船底に幽閉せられて碌に食事も與へられず、飢餓は容赦なく襲ひ、且つ全身の水腫を來し、遂に死に到る例は屢々ある事である。其の經路の悲慘なる彼の文明國人が血を湧かしたる奴隷問題にもたとうべきである。斯くして彼等は目的を達するに於て誘拐者當初の目的は達せられる。即ち生殺與奪の權は彼の手にある。よし目的の地、目的の巢が最初少女の希望と副ふや否やは斯うなつては殆んど問題とならぬ。事是に至れば萬事休す。未だ花唇も綻びぬ可憐の少女は唯餓狼の餌となるのみ、號叫を上ぐるも救命を訴ふるも何の響かあらん。斯くして異域の空に幾十萬の同胞は徜徉ふのである。歐洲航路をとりし旅客は南洋諸港に於ける我娼婦の現狀を見て必ずや一掬可憐の涙を其前涯に濺がるゝであらう。

（五）

歐米を以て文明國として心醉し、夫婦の間のみ倫交あるが如く思惟するものも、上記の事實を視ば少しく愕かざるを得ないであらう。然も是れ國の東西を通じて賣淫の到底禁遏し得べきものにあらざるを證明するもので、而かも歐米の制度は娼婦に純然たる自由行動を許し、毫も人權を侵害するが如きことなき點は吾人の尤も注意を拂ふべき所である。

吾輩は以上述ぶる所によりて我國現下に於ける賣淫制度の極めて不完全にして人權の蹂躙著しく、之を完全にする事によりて始めて社會の便所として其要を爲すことを得可き理由を盡したりと信ずるのである。

而して其矯正の方法は極めて簡單にして、其大部分は行政官の手心によりて解決せらるゝも、當局の有志が之を實行するに委するのは日暮れ道猶ほ遠きの感があるから、社會の識者たるものは之を提撕して以て速に之を實行せしむるやうにしなければならぬ。而して是に一事の注意せざるべからざる事は、即ち今日然娼妓の抱主たり雇主たるものは其抱妓を届出づるに養女の名義を以てするが故に、彼等は數人乃至數十人の養女を有し、之に對して親權を行使する事を得るやうになつて居る。現行民法にては、養女は何人にても爲し得る之を以て彼等は親權を以て其抱妓の收益を先占することを得、頗る有利なる地位にありて其懐を肥してゐる。而して抱妓たるもの其桎梏を脱せんとするも、親子の間なるが故に、彼の雇主被傭人の如く無造作でないから、彼等抱妓は必ずしも親權の二字に束縛せられ、怨を吞んで屈服するの悲慘な事を見るのである。元來親權の性質たる子を扶養教育監督することこそ認めらるれ、決して子に對し淫を鬻ぐ事を強ふるものにあらず。而して之を肯ぜざりしとて子を懲罰することは出來ないのである。故に法律を改正して斯の如き不法暴戾なる行爲あることは親權喪失の原因たらしむるやうにし

なければならぬ。外國の立法例には斯る規定が設けられてある。此事たる一小事の如くにして實は決して然らず。大なる人權問題たる價値を倶ふるのである。而して尚一事の加ふべきは賣淫を業とするものに加ふる社會の制裁である。此れは極めて嚴酷なるを要するのである。

前にも縷々述べたる如く、彼等の存在は社會上必要のものたりと雖も、而かも醜業を營むものをして公々然として常人と伍し、社會上均等の名譽を共荷せしむべきにあらず。如何に彼等が納税をしたればとて、必ずこれに公民權を授くる理由はない。納税を爲すものは必ず公民權を有するもの必ず公民權を得可しとは決定して居ない。彼等醜業者は畢竟社會の闇黑面の用を足す人間であるから、其公權を奪ひて衆人と異にするといふ事は社會の綱紀を維持する上より必要なる事にして、外國の立法例にも此事は認められてある。吾輩は斯の如く各種の方面に於て現時の遊廓なるもの、制度乃至内容を法制上に於て又は行政上に於て改善する事は緊急なる社會問題なりと思惟し、識者の深く此方面の研究を積まれん事を望むのである。

廢娼は七千貳百萬圓の國益を増す　（寄書）

山梨縣東山梨郡八幡村　大屋作重

一人の娼妓が嫖客から絞り取る金高を一日平均四圓とすれば、一ヶ月百二十圓の一ヶ年に一千四百四十圓である。一ヶ所に二百人の娼妓があるとすれば一ヶ所一ヶ年の收入は二十八萬八千圓に達する。そして全國に約百ヶ所あるものと假定すると、實に二千八百八十萬圓といふ巨額に上る、現に我山梨縣には二百人の娼妓があつて、一ヶ月二萬圓以上の收入がある、そして本縣は全國の約百分の一に當るので之を標準として過のない事を確信するのである。尚三府五港と云ふが如き多數の娼妓を有する地を合算すれば全國に五萬人の娼妓があるのだから、一ヶ年に七千二百萬圓と云ふ眞に驚く可き金額が蕩費せられてゐるのである。更に之を同胞五千萬人に割當てゝ見ると一人一圓四十錢宛費消する勘定で、男女老幼一千人に對して一人の娼妓が配されてゐる割合である。

公娼制度に就て

（寄書）　芝明舟町十九番地　荒木三雄

公娼は國家道德の缺陷を公示する者にて、恥辱此上なきは論を俟たずと雖も、數百年因襲の久しき、之を一朝に撲滅する事甚だ難きを想はずんばあるべからず。素より理論上公娼廢止の必要なる、一點の疑ひを存せずとは云へ、翻て實際如何を顧みなば、假し一時の好奇心に驅られて漫然廢娼論を唱ふとも、其利益が必ずしも伴ひ得べしとは速斷すべからざるに似たり。

蓋し天保の改革は時の鐵血宰相水野忠邦の羅致せる政策に依て、多少時弊を矯むるを得たるも、其政度餘りに峻烈に過ぎしため、却て餘弊續出して所謂角を矯めて牛を殺すの類に陷りし嫌ひなきを得ざりき。夫の岡場所の如き、私娼を禁じて之を芳原に編入せるは、英斷果決を疑はずと雖も、細民性慾を克制し能はず、公娼を買はんには億劫なるに依り、勢ひ低廉なる隱賣女を需めて僅に獸慾を洩さんと欲し、其頑强の瘡毒に罹りて民力を弱らしむる恐れあるにも不拘、之を敢行して恬然顧みざるなり。此は假ひ國權以て抑ゆるも不能、從つて刈れば從つて生じ、殆ど底止するを知らざる所以にて、當時の大法官天部定謙留守居長官筒井政憲の緩和策を講ずるを斥け、枉を矯めて直に過ぐるの猛斷を施し、亢龍の悔自から失職の譏を招き折角の大政策も徒勞に終りしなり。後の爲政家たる者須らく覆轍に鑑みて中庸を得るを心懸けざるべからず。

而して水野宰相に尋で娼妓を解放し私娼を絕ち廓清を期する上に萬の遺漏なかりしは佐賀侯鍋島閑叟にてありき。而も此施政も頗る嚴峻に亘り、啻に妓樓を毀つに止まらず、其隣邦の章臺に遊ぶも閉門差控に處し、甚しきは割腹を命ずるに至つては、宛ら勢を割き幽を閉づる宮刑的の筆法にて、到底長く此政道を維持し得べからず。且つ其大なる反動を釀成する兆因たるを免れず。何となれば當時藩制として次三男は部屋住不自由の身にて、獨立一家を建つる能はず、假へ其養家に入て漸く自立し得るも、そは單に少數に止り、其大部分は無妻の男子と看做さゞるを得ざれば、血氣の靑年焉んぞ情火燃え鬱悶に堪ゆべくあられば、窮して亂する譬の如く、維新以降風紀一時に頽壞し、私娼所在に顯はれ、博徒橫行遊民次第に殖えて昔日剛健の跡見るべくもあらず。大隈伯爵は國惡を忌みて體裁を繕ふも、予輩に在ては壯年の舊藩人素より地理的觀念に稀薄なれば公平に佐賀の現狀を許くに躊躇せず、尤も適切に云はゞ今日の佐賀は九州武士の空名のみ存して、內實甚しく腐敗しつゝあり。假

へ表面方直を裝ふと雖も、畢竟羊質の虎皮なるに過ぎずして其根幹は既に枯れ果てつるなり。

之を歐米に徴するに巴里の如きは眞に百鬼夜行の體にして、少しく實狀に明達するの士は、文化の程度を疑ひ高等內侍の夥しきに一驚を喫すると云ふに非ずや。其喋々西洋の開化を說くは要するに皮相の文明に惑溺するの徒にして、民情を知悉せりと云ふべからず。公許の妓樓なき代りに私に淫を鬻ぐ事寧ろ我國に萬倍するなり。夫の露國の如きも征矢遠戍中に艶姫と樂めば內君亦徒らに空閨を守らず、其れ相應の對手を擁すると云ふに至ては、淫風の盛んなる我公娼に淩駕すると云ふも失實の言ならず。斯る狀態は泰西諸國の主宰者の決して過眼に附する處にあらぬも、病膏肓に入ては詮方なく其救急の方策さへ確立せずして已むなく屈狀を持續するなり、夫れ然り世を擧げ人を悉して聖人君子に化せしむるにあらずんば、廢娼論は到底一個の空想に過ぎざるべし。假に娼妓解放するも私娼にして絕たずんば弊害は一層甚大なるべきを信ず、明治の初年賣淫禁令の議、司法省の會議に上るや、時の警保頭松本暢(今の警視總監)は、揚言して之を需むる者にも併科せずんば寸効なからんと云ひしが、果して其言の如く賣笑婦の影は未だに滅絕せざるなり。蓋し需むるありて供給するを生ずるは、必然の現勢なれば供給者のみを罰するは法の原則に背けるや明けし。

然らば如何にせば可ならん乎、他なし今は空文となれる明治五年の大政官布達(娼妓解放令)を復活せしむるにあり。此は故司法卿江藤新平卿の立案に基き、閑叟忠邦等に比して頗る穩健且つ秩序的なるが上に、夫の娼妓全廢論とも異れる者あり、其司法省の附帶告論は實に卿が親しく筆を採りし所にて、藝娼妓を牛馬同然と喝破し人より、牛馬に返辨を求むる理なしと斷じ、以て養女名義に基く人身賣買を禁じ之に關する一切の貸借を非認したる、其活眼其達識、今日猶ほ時務に剴切なるを覺ゆ。卿は不幸早世せられて、此實行上充分の成績を見ざりしかど、之を復活勵行せば、奴隸制度立所に消散すべき、而して人權蹂躙唯に一林屋お鐵に止らざるや必せり。果して然らんには廓淸は掌を飜すが如くなるべし。其全廢云々に至っては之れ實に謂ふ可くして行はれ難き問題なるが故に、予は單に懸案となして、之を座して百年の河淸の曉に待たんのみ。

記者曰、氏は究竟我徒の贊成論者也。されど吾人にとりて隔靴搔痒の憾あるは氏が廢止の結果を誤想し百尺竿頭尙一歩を達觀し得ざりし故也。蓋今日の警察が私娼取締に緩漫なるは娼妓を公認し乍ら娼妓以外の同業者を否認する自家撞着の爲に嚴行し得ざる處にして根底に一大病源を有す。之を道德の上より見るも貞操の權威始めて生じ醜業汚行の觀念始めて生ず。弊害を釀成すとは論理の導き得ざる處也。假し一歩を讓るも現在の公私娼數より增殖するの理ある事なし。巴里の百鬼夜行は我の百鬼晝行に勝らずや。下水は須く地下にあらしめよ。況んや公娼は淫行を嫌忌するも尙強いられ私娼は好んで墮落せる醜行にして自由意志を有す。何ぞ況んや奴隸制度の人道上斷じて認容す可らざるに於てをや。

雑纂

待合の大都市

大隈伯爵談

▲東京も愈々以て待合の大都府となりつゝある。我輩も其は道樂も盛んにやつたが、併し近頃のやうなものは其時代にはなかつた。其建物から言へば實に王侯の邸宅に勝り、其食物より言へば殆んど如何なる富豪の臺所に行つても得難いものがある。而も如此にして眞の料理店は漸次零落の運に向ひ、所謂待合仕掛のものは逐日隆盛に赴くのである。待合の増殖はやがて藝妓の増殖であつて、我輩は統計によつて少しく此方面を調べて見たいと思ふ。

▲近頃或人が來たので『乃公を高等待合へ、五六軒件れて行つて呉れ』と言つたが、實際實地探檢をしないと議論が出來ないからね。

▲近來風紀警察で、餘りよく知らぬが藝妓の左褄を禁じ或は甚しき華美な風をして市內を横行しないやうに取締つてゐるさうだ。誠に結構な事である。然るに一夜其方面の某大官が待合に行つた。女將の曰く『あなたも隨分ですね、這麼に酷い眼に逢はして之れでは妾達が稼業が立行きませんわ、あなたもかうして遊びに居らつしやる癖に……』と怨じたに對し、某大官の答へは何事ぞ曰く『何、それはそれ、之れは之れさ』には驚くぢやないか。

▲嘗て渡邊無邊俠禪、大藏大臣たりし時、議會に於て追窮せられ『彼も一時、之も一時』と言ひし爲め、今に一の笑柄として殘つてをるが、さり乍らそは堂々たる議會の答辯であるが。然し之は待合の樓上に胡坐をかいて盃をとり乍ら『それは其れ、之れは之れ』で濟むであらうか。

▲一體近頃當局者は頻りに風紀道德の事を憂ひ、頻

りに風紀刷新の訓令を出し、之が取締を嚴重にしてゐるが、世の中の實際は却つて當局者の訓令に逆行しつゝあるのである。あんなにやかましく云ふにも拘らず、一として實行せらるゝ事なく、皆逆行して行くと云ふのは、何か原因がなければならぬ。之は誠に研究に値する事である。尤も如何なる文明國に於ても、又嚴肅なる社會に於ても、必ず一面に闇黑界の存在するもので、好んで個人の闇黑をあぐるはよろしくないが、今日の如く、當局者が聲を大にして風紀問題を叫び、種々の手段を講じて取締りつゝあるに關らず、社會は常に當局者の訓令と背馳しつゝある、此奇異なる現象のもとには、必ず或他の原因の伏在してをる爲であつて此場合に處して、吾等は當局者若くば社會に刺激を與ふる必要を認むるのである。

記者曰く如上の話をしてゐる時、一人の新聞記者が這入つて來て、『既に現内閣の運命も永くはないやうに思はれるが伯の御意見は』、と聞くと、伯は言下に。

▲何、内閣が怎うしやうと怎うしやうと待合の衰へない限りは要するに同じ事だ。誰が内閣を引受けるかと云ふが如きは小なる問題だ。如何なる主義主張によつて政治をするかと云ふ事が、我輩耳を聳てゝ聞きたい議論である。嘗て西班牙國にては國民が悉く心を併せ、怎うか我國に最もよき景色を與へ給へと祈つた、所が神樣は直にそれを與へられた。それから今度はどうか好い氣候を與へ給へと祈つたら、之も與へられた。そこで怎うか美人を與へ給へと祈つたら遂に之も與へられた、更に彼等は、どうか好い政治を與へ給へと祈つた處、今度は神樣が首を振つて與へられなかつたと云ふ話がある。之はつまり歐羅巴人が西班牙人を諷した笑話であるが、併し人間の欲を限りなく要求すると、悉く容れられる事はなくて、却つて最も大切なものを遂になくして了ふ樣な事になる。我國にもさう云ふ嫌があるまいか。まあ〳〵待合政治の盛んな間は、善良なる政治は到底得て望むべくもない。（珠川）

朝野名士と廓清會（三）

貴族院議員
前農商務次官　前田正名氏の意見

△昔の取締りは今よりも嚴格であつた

此方面に對する愚見は、果して貴下の御説と相一致するや否やは知らないが、兎も角、法律や制度を以て所謂淫行を制するといふ事は不可能であらう。乍併止むを得ない事は止むを得ない事として、お互に營業者も亦嫖客もせめて今少し愼しましめたい、換言すればこつそりやる事にしたい、今日の遊廓狀態は昔より餘程取締りが寛大になつたやうに思ふ。江戸時代の取締は吉原にしても京都の島原にしても中々嚴格であつた。一廓を設けて嚴重な取締をやるならいゝが、新宿品川と云つたやうに、甲州街道や東海道の往還の通路に設けてあるのは甚怪しからぬ事である。而も往來に向つて堂々と看板を掲げてゐる、殊に驅黴院等に至りては宛らお役所風の大看板を掲げてゐるが。も少し此方面の事を愼みたいものである。古へは各藩共大道に遊廓があるやうな不都合はなかつた。江戸でも柳原兩國新橋あたりにあつても其れ等の藝妓は眞の藝妓で、娼妓の稼業はしなかつたが、今日の藝妓は殆んど凡て疵物である。京都でも昔は島原以外に祇園町等はなかつた、此頃は藝妓は元より娘迄疵物で、淫風滔々、學生風紀の紊亂其極に達せるは甚だ憂ふべきである。

△世界の何處でも見られぬ奇風

外國邊では伊太利等は淫賣屋は分らぬ事もないが佛蘭西に行くと全く分らぬ樣に體裁を作つてゐる。希望者は馭者に賴んで伴れて行つて貰ふ位なもので、番地の字を大きく書いてある處が曖昧屋の印とはなつてゐるが、兎に角かくれてやつてゐて、決して大厦高樓軒を並べてやつて居るやうな處は見な

い。然るに日本では淫賣屋が軒を並べて一町をなして居るのみか檢査日等になると、列を組んで大道を横行し、何か區役所か警察署かとも思はるゝ樣な大看板の驅黴院に堂々と乘り込むが如き、不體裁は斷じて世界の何處にも見ることの出來ない奇異な風習である。絶對的にあゝ言ふ娼妓を禁せられぬなら、せめて耻を知つて愼む事だけでもして、こつそり人の目に立たぬやうにしたいものである。自然を尊ぶと云ふ事だけで云へば、人間も裸體でいゝ筈であるが、さうは行かない、やはり不潔な處は之を隱すのが禮である。それで我輩の要求は、往來に向つてゐるやうな遊廓を取拂ふ事。而して殊更行かうと思ふ人でなければ全く通過の必要なき場所に移轉せしむる事であつて、同時に大看板等を出させず可成蔭でやらせる事である。

△醜業者取締りの法

藝妓酌婦の墮落は亦頗る困つたものである。が之が取締の方法に就ては、毒を以て毒を制すと言ふ風に、彼等相互の間に制裁を起したい。即ち貸座敷業者は藝妓其他の密娼を容赦なく警察に訴へるやうにさせるので、今日の如き緩慢なる警察よりは、寧ろ職敵と云ふ點を利用したならば今より好結果を得るであらうと思ふ。

△外國で一番辛い事

我々が外國に行つて最も辛く思ふのは、醜業婦が日本の唯一の物産となつてゐる事である。或人は金が儲かるからいゝではないかといふ、甚だ亂暴な話である。何となれば彼等も亦姉妹である。其姉妹を物産として取扱つてゐるとは、一等國の體面から言ふても情ない限りである。

記者が茲で、日露戰爭後滿州に於ける醜業婦の慘狀に就て語ると、氏は曰く。

日露戰爭の跡も出火の後の釘拾ひと云ふやうな譯で、野次馬や破落漢が入込んで、惡い事をしない樣

にしたいと私は直に出掛て行つた。旅順で當時乃木(大將)と共に居り、又東郷(大將)の船にも乘つて居つて、いろ〳〵心配もして見たが、遂に愛憎がつきて歸つて來た、恁う云ふ事はどうしても、宗教の力によるの外はないのである。

△畏れ多きことながら

尚一言したいのは、畏れ多くも、此凡の國の耻辱、國民の苦痛等を、陛下に對しかくし奉るの誤りなる事である。陛下が御巡幸になる、直にお通りになる道筋の汚い物をかくす。成程禮を表する點はよからう、乍併事の眞相を蔽ひ奉るのは宜しからぬ事で、陛下には有の儘に御目にかけ、御心配なすつて頂く方がいゝのである。若し、陛下が實際遊廓等を御覧になるならば、到底彼麼處をあの儘にしてはお置にならぬに定つてゐる。臣としての禮を辨へぬ樣だがさうではない、實は人より以上に皇室に對して忠節の心を持つてゐるからこそ、我輩はかく云のである。(球川)

裁判官の見たる公娼制度

左は元長崎控訴院檢事たりし宮腰信次郎氏の談話なり。多年裁判官たりし氏の頭腦に映じたる公娼制度耳を傾けて聽くべし。

(一) 岐阜縣知事の誘惑

私は岐阜の者であるが、岐阜縣では明治五年に娼妓解放令が下つた。其時の縣令が長谷場恕蓮氏であつて、中々の名縣令であつた。名實共にかの達令を實行して而して一切遊廓なる者を廢してしまつた。所が其後間もなく不幸長谷場氏は亡くなられた。後を繼いだのが小崎利準と言ふ人で、此人も中々忠實な人で舊令尹の政を其儘受繼でやつて居つた。從つて遊廓なども許されずに居たのであるが、茲に一つ小崎縣令に誘惑が來た。と云ふのは明治二十年の頃であつたかと思ふ。岐阜に停車場が出來ると言ふので、其停車場道の爲に八間道路の土木工事を起した。其工事をしたのはよかつたが其工事の手續を縣

會に履んでゐなかつた爲に、縣會ではどうしても金を出さぬと言ふのである。茲に於て縣令は非常に困り何かよい方法はないかと考へて居つた矢先、名古屋の女郎屋仲間が入り込んで、停車場附近に遊廓を立てる事を許して下さるならば、開道の入費は一切私共で負擔致しませうと申込んだ。そこで縣令は困り切つてゐる矢先なので、遂に遊廓設置を許可し、今の眞金町が出來たのである。今之を考ふれば甚だ殘念な事と言はなければならぬ。

（二）公娼制度は不品行を最も簡便に行はしむる機關也

之れから少し後の事である。私は學校から或暑中休みに歸省すると、私の父が懇々と青年の心得に就て說いて聞かした。其中の一例に一體眞金町に遊廓が出來る迄は、岐阜中學校生徒などが女に關係すると言ふ様な事は全くなかつた。然るに眞金町が出來て以來大抵中學の四五年生位の者が、遊廓に足を蹈み込まない者はないと言ふ程に至つた。即ち一口に曰へば遊廓が青年を墮落に導くと言ふので、否實際導いたと言ふのである」其以前に於ても無論料理屋の酌婦等のやうな、私に淫を鬻ぐ所の女はゐなかつたのではないけれども、併し之等の女に手をかけやうとすると、そこに一の交渉談判を要する。それは初心の青年として躊躇する事である。然るに賣物を看板にしてある以上は一口の交渉談判の必要もなく。たゞ定められた規定の料金を以て、行きさへすれば直に買はれると言ふ、つまり非常に不品行が簡便主義に出來るので今迄は引込み思案の青年も、のこ〳〵出掛けて女郎買に行くと云ふ様になつて來たのである。でさう言ふ風に眞金町の實例を以て懇々と自分を誡めてくれた事があつた。

（三）必要論者頂門の一針

私娼が公娼になれば道樂者が多くなると言ふ事は、必ず間違のない事と思ふ。而して此所謂交渉談

判が複雜であれば遠慮する傾もあるが、交渉談判の必要がないとしたならば單に青年ばかりでなく、妻帶者であつても其方面に足先が向き易いと言ふのは當然の事と言はねばならぬ。それで其後に廢娼論が盛んに起つて、山梨縣の古府に東京の人達が來て廢娼演說會をやつた事があつた。其當時自分は古府にゐたから、古府の遊廓の登樓客を調べて見た所、半數以上は未婚者でなくして妻帶者であつた。それで之はつまり青年は情慾が熾んであるから、此青年の情慾を充さんが爲には已むを得ぬ設備であると言ふ論者に取つては此事實は大打擊であつた。

（四）色慾發達の經路

更に今日自分が二十餘年間裁判官をして居つて、直接に男女關係の問題に接して、實驗上より得た智識は所謂色魔と言つたやうな惡者に、惡事がどう言ふ樣に進んで行くかと言へば、初めは必ず女郎買である、女郎買から藝妓買、藝妓買から、素人娘瞞し、素人娘瞞しから有夫姦と云ふ樣に進んで行く。と言ふのが人間の慾望である。旨い物を喰ひたいと云ふ。奇麗な物を着たいと云ふ、而して其樣な慾望は貧乏人にあるかと言へば、さうではなく金滿家であつても同じである。食ふ事、着る事の心配のない人は寧ろ却つて熾んな位である。所謂「隴を得て蜀を望み」又唯何かなしに得難い物を得たいと言ふのが慾なるもの、性質であるからである。そこで第一に女郎買に味を覺える、併し女郎買では一定の金さへ出せば何人でも之を自由にする事が出來るものであるから面白くない、やがて飽が來て藝者に手をかける。藝妓になると、所謂先の交渉談判を要するのであるが、藝妓とてもやはり金次第であるから未だ滿足が出來ない。そこで素人の娘を瞞すと言ふ事になる。甚しきはそれすら滿足する事が出來ず、遂に他人の妻を弄んで見たいと言ふ樣な慾望が漸々と發達して來るのである。是は吾々が數十年間司法官として、犯罪人を取扱つて其實驗より得たる推論である。

婦人社會と藝娼妓問題

日向代議士夫人

日向は十三歳位の折から、既に此問題を考へてゐました、群馬縣の廢娼問題にも骨を折りました樣な次第で、いつも二人の間に此問題の大切なる事を語らつてをる事でござります。

先達て靈南坂教會の栗原さんがお見えになりまして、公娼問題に對して某博士夫人の御意見に「妾共でも殿方であつたら、買つて見やうかと思つてゐる位です」と仰しやつたとの話から、私の意見をお聞きになりますので、何と言ふまあ亂暴な議論でしやうと云つて、お話した事がございました。

（一）藝妓も娼妓も同じ事です

私は事情あつて幼少の頃、さる割烹店にゐた事もありまして、分けて此問題に對しては痛切なる感じを懷いてゐる者でございます。娼妓にしましても、藝妓にしましても、其氣の毒な狀態は全く同じで、近頃讀賣新聞で、雛妓を廢せよと云ふ事を提議せられたお方があると申す事でございますが、私は其御意見を感謝して歡迎致します者でございます。外から見ました處では、奇麗な着物を着て、あーして愉快に滿足してゐますやうに思はれますが、內情は酷い事ばかしで、漸々年が進むに從つて亂暴な事を强ゐられ、退つ引きならぬやうにして其貞操を汚させる樣にしむけますんで。一體申しますと、今日の豪商とか言つてる人達が、私は憎らしくて堪りません。皆あの方々がお金で操を弄ぶのです。名を申せば仰しやれば申上てもいゝのですが、それは〱不都合な事ばかりなさるのです。さうして一方に於ては紳士だとか豪商だとか言ふ方々が金で脅かし、一方に於ては義理と權力で女將から壓制せられ、かよわい小娘の我にもなく漸々墮落の淵に沈んで行きますの

で、最初の中はどの娘も客を取る等と言ふ事は皆んな厭つてゐますけれども、遂には自身から諦めて働く様に色々の手段を以て誘惑しますので厶います。

（二）危險なる花柳界の道德教科書

誘惑の手段としましては、例へば講釈本の宮城野信夫、さう云つた様な本を見せて、墮落する事が親孝行であると云ふ、飛んでもない理屈をつけて誘ひますので、一歩墮落の淵に足を踏み入れましたら、あとは惰力とでも申しませうか、自らだん／＼深みに落入る様になりまして、果ては自暴自棄となつてほんとの娼妓と同様になつてしまひます。若し私が新聞記者でございましたら、紳士だとか豪商だとかの、裏面の罪惡をあばいてやりたいと、生意氣のやうですけども、腹の立つ餘り思ふのでございます。

元より貸本屋も惡うはございますが、何故當局者がさう云ふ貸本屋を取締らぬのか、私共は解せませぬ。社會主義だとか、虚無黨だとかに關する著述は學者の眞面目な研究でも、立派な露西亞文學であつても、片つ端から發賣禁止をして、新しいもの丶取締ばかり嚴重にして、古い物は何故取締らないのでしやう。泥棒でも人を助けたと云ふ間違つた義俠心、藝妓でも身を賣つて親を救つたと云ふ誤つた孝行、さう云ふ事をして義俠心があるとか、意氣があるとか云ふ。鼠小僧だとか、白石譚や、俠客本などは、彼の人達の好んで讀む、花柳界の道德教科書なのでございます。

這麼所謂道德界の危險思想を、文部大臣なり內務大臣はどうして知らず顏してをられますのでございませう、眞に不思議な事ではありますまいか。

（三）雛妓墮落の經路

どうせ自分の娘を雛妓に賣る位で、隨分慾ばつた親でしやうから、抱へ主の方では其慾を利用しまして、親が娘にさうして、呉れないか、自分も助かる

と云ふと、一方では抱へ主が現在親の爲だからと、抱へ主と親とぐるになつて娘を犠牲にします。又も一つは氏なくして玉の輿に乘る、藝妓になると立派な人々に接してゐる内には、玉の輿の機會がないものでもない、と虚榮心からして遂に身を落すやうになるのもございます。

私が殊更近しくしてゐまして極可愛がつた二人の娘がありました。怎う云ふ場合があつても、怎麼に虐待されても、ちやんとしつかりしてゐるやう、ぼんやりしてゐると、他の人達のやうになるからと、呉々も注意してゐましたが、あの境遇では止むに止まれぬ義理と情の挾み擊にあひ、どうしても自分の貞操を全うする事が出來ぬものでございまして、とう〳〵二人共並の藝妓になつてしまひました。併し一人は非常に後悔いたしまして、自分が弱いから這麼になつたと妾に悔いますので、出來た事は今更しかたがないから、今後妾になつたり、同じ様な仕事を永く續けるやうな事なく、誰でもほんとに自分を愛してくれる人の妻となつて、今迄の間違ひから出るやうに勸めました處、只今では或商人の妻となつて、幸福に家を持つてをりますが、一人は今日も尙新橋で左褄をとつてをるのでございます。

（四）家庭と藝娼妓の問題

つまり私は殆んど藝妓も娼妓も同様に見てゐます人權の蹂躙とか虐待とか奴隸とか云ふ點より見ますれば、どちらも品物同様に扱はれてゐて變つた處はないかと存じます。外様のお家庭ではなるべく遊廓の話をお子様方になさらぬ様に遊ばしてゐらつしやるやうでございますが、私共の家庭では却つて申聞かしてをるのでござゐますから、子供も相當に廢娼問題を辨へてをります。私は此人道問題が私達の時代に解決しませぬなら、どうしても子供の時代になりとも解決させたい、さう言ふ方面に働かしてやりたいと思つてゐまして、先達ても子供が『僕が大きくなつたら苦しんでるものはみんな救つてやる』等

と申してをるのでございます。

(五) 母親として見たる 軍隊と遊廓

それから、當局の人が遊廓を必要とするのは、軍隊の爲になくてならぬからだと云ふ論者がありまして、新しく軍隊を置けば新らしく其處に遊廓をつくる、軍隊ある處必ず遊廓が伴つて、軍隊と遊廓は離るべからざるもの〻様になつてゐるさうですが、まあ何と云ふ間違でしやう。一體誰にしましても子を持つ親の心は皆同じで、兵隊にいつてゐる間惡い友達の惡い感化を受けぬやうに希ふのは、子を持つ親の心でしやう。それに同情したら軍隊の側に遊廓でもあつたら寧ろ其を追拂はなければならぬではありませんか、軍隊を置くために遊廓を驅逐するといふのなら聞えます。けれどもさうではなくて軍隊を置くから遊廓が必要だとは、人の子を預かつて居りながら、其親に對して誠に同情のない話であると思ひます。かやうの風にして軍隊に入れると、丸で放蕩の修業にやつたやうなものでありますから、帝國の臣民であり乍ら、軍籍を忌避する息子の希望を親が何となく助けると云ふ不正の風も生じて參る譯でありまして甚だ歎はしい事ではありながら、同情すべき點があると思ふのであります。兵營に於て秩序立つた生活は却つていゝ感化を與へ、國民的訓練とも云へませう、其いゝ感化より以上の惡感化を受けて歸つて來るのですから、母親に取つてはどの位痛苦だか分りません。

歐米人の觀たる日本の公娼

(三) プラツト氏の觀察

同氏は明治六年より十一年迄日本の各地に於て教育に從事せし人也

▲日本人は頗る多淫の人種なり彼等は土耳其人程には放逸ならざれども甚だしく肉慾的なり。但し其

食物の下等なることは大に此粗野なる性質を抑制せしに相違なし。封建政府の奇制度たる吉原なるものを見よ。是れ政府の保護の下に在立せるものにてダルウィンをして評せしめば日本政府が人口の過剰を憂へて之を制限せんが爲に斯る方法を取りしものなりと云ふならん。去れど家康の法度によればこは好戰武士の猛性を緩和せん爲なりとあり。思ふに此說明の方眞なるべし。吉原制度は全く封建の放縱の產物也。何となれば神道も佛敎も猛き武士の性情を和ぐるの適當なる道德力を有せざりければなり。百弊は之より起り、或は大家の人にして吉原の遊女を拔擢して妻となすあり。或は母にして娼家の主人に其無邪氣なる少女を賣る者あり。

（四）歐米人の日本觀

著者の觀察

▲歐米人の日本觀の記者は其卷中に列敘したる歐米人の日本觀察中、異口同音に我國民に加へられたる二個の剴切なる苦き忠告ありとて、一は日本人が嘘つきの人種なりと云ふこと、今一つは日本人の婦人に對する觀念の野卑なりといふことなりと指摘せり。

（五）米人フォルク氏の觀察

▲米國の紳士フォルク氏曰く『世界漫遊者の多數は異口同音に日本に往きて藝者を見ざるはエヂプトに行きてピラミッドを見ざるが如し』と。

（六）米國の一新聞記者

▲先年米國艦隊の歡迎に藝者を出す出さぬの議あるを傳聞せし米國新聞曰く『日本は公娼公許の國に非ずや。藝者位を外人の前に出すは寧ろ當然の事なるべし。實際外人は藝者を以て日本の代表者と思ひ居れり。宜しく臆面なく出すべし』と揶揄せり。

（七）某英國貴夫人

左は英國の某夫人が廢娼問題に就て山脇博士夫人に寄せたる私

信の一節也。同夫人の日本公娼に對する意見を知るに足るものあるを以て婦女新聞より茲に轉載す。

▲夫人は婦人矯風會の事に就て御許様と語りたる由に候が、小妹も今や教育ある日本人が、凡ての改革の問題に就て覺醒すべき時機なりと信じ申候。

只今より四十年前英國婦人はジョセフィーン夫人に指導せられて國家の惡制度に反抗する運動を起し、十八年間の苦闘を經て漸く廢止の目的を達し申候。

英國の矯風會は創立以來二十五年に候が、此の間熱心に働きたるかひありて、遂に輿論を動かし議會は多數を以て、醜業禁止法案即ち女子の身體の耻づべき所得によつて生活する男女を罰する法案を通過し、それが直に法律として發布せられ申候。然るに日本に於ては、兩親又は親類の者等が、此の醜業を强ふるといふにては候はずや。

嘗て次の如き語を聞き申候。米國に於ける排日運動を使嗾し激成せしむるものは日本移民の先鋒たる醜業婦なりと、確に一理ある言のやう存じ申候。小妹は又某外國人より左の如き批評を聞きたる事有之候。

日本の花には香り無し、日本の鳥は歌はず、日本の婦人には力なし。

斯る忌はしき批難を日本の女子の手によつて一掃せらるゝは、今日が最好の機會と存じ候。此際御許様は何とか御友人の方々と御相談の上、御盡力相成るわけには參り申さず候や、小妹も及ばずながら微力相添へ度と存じ候。

日本婦人は今や此の活動を要する問題に就て眠り居候やう相見え候。御許様は何とかして彼等を呼び覺まし給ふ事出來申さず候や、是れ實に刻下の急務に御座候。

返すゞゝも御許様が奮つて此の事に當られん事を祈り上候。小妹も必ず微力相諧し申すべく候。かしこ。（婦女新聞）

藝娼妓の養女制度と

△痛快なる大審院の判決

嘗て記者が滿州にあつて婦人救濟の事業を經營してゐた時、一人の雛妓が救濟所に逃げ込んで救濟を求むるに會した事があつた。

海外醜業婦の救濟法は、主に誘拐者の手によつて來るのであるから、誘拐者の手から引取つて之を保護するのが、當時自分の實行して居つた處である。然るに今度逃げて來た雛妓(十三)を、こちらに引取らうと思つて警察に談判に行くと、其子は抱へ主の養女になつてをつて、主人は債權者であるのみならず親權者である。故に他人の自分が如何ともする事が出來ず、空しく切齒扼腕しながら、わざ／＼懐に入つた窮鳥を、復元の殘忍な樓主に返さねばならぬ事となつた。それからして余は藝妓屋或は貸座敷業者の養女といふ問題が常に頭を去らなかつた。そして內地へ歸つて見ると、東京では新橋、赤坂を始め、地方に於ても大概金を貸すと共に養女として戶籍ぐるみに引取つてゐるので、余は熟々斯かる不都合な事のあるべきでないと慨歎してゐた一人である。

一體日本の民法に本制の設けられた所以は、日本は由來家族制度の國で、家名を相續するといふ事に重きを置いてゐる。然るに若し子供がないといふ時には家を相續させる事が出來ない、此必要から養女制度が設けられたのであるのに、彼等は樓主及抱へ主なるものは只、自由廢業の防禦手段として自分の抱へ藝妓或は娼妓を養女にするのである。人の子供にしておけば、いつ廢業せられるかいつ羽が生へて逃げ出されるかも知れぬ處から、親權を掌握して此損失を防がんとする奸策である。江原翁の云はれた親權を以て子女に不道德を强ふるが如き國は、世界の一等國にないのは勿論、恐らく何處の世界に行つても這麽亂暴な事はあるまい。假令如何に親であるからと言つて子供に對して泥棒をして來いと命ずる

權利はない如く、凡て親權を以て不道德を强ふる事はあるべき道理でないのに、日本には此驚くべき矛盾が行はれて、社會は毫も今日迄怪しまなかつたのである。

然るに必ずしも我徒の主張の反響と云ふ譯でもあるまいが、多少此方面に人心が覺醒して來たかの面地があつて、先月號の雜誌社會政策には、寺尾法學博士の此問題に對する意見が記してある。（論議欄賣淫制度の改善參照）之れ實に吾々の言はんと欲する處を言ひつくしたもので、余は近頃痛快な文字として此論文を讀んだ。然るに又々茲に喜ぶべき報知は新紙によりて齎された。

八月二十二日の東京の新聞は、大審院は正に左の如き判決を此藝妓屋の養女制に對して下した事を報じた。吾々は國家のため、風敎廓清の爲め、眞に慶賀すべき事と思ふ。其故に煩を厭はず、茲に其全文を載せておく。（益富生）

藝者の養女は無効

△花柳界の大恐慌

嘗て吉原の遊女綾衣が自由廢業を企て、一般樓主を驚かしてより恐慌は藝妓屋にも及び抱主は抱藝妓に旦那といふもの、附きたる際所謂親許身受けにて牛蒡拔に拔去らるゝを防がん爲多くは之を養女として入籍させ居るより時には數十名の養女を持つ者さへ生じたるが此種の養女緣組は法律上全く無効なりといふ事此度大審院の判決にて確定となり一般藝妓屋は又もや以前の恐慌を繰返すに至りたり

△訴訟の起因　此訴訟事件は、新橋の藝者屋鶴三升事田中仁吉の養女藝名福鶴事田中しづ（二十）が、父泉州堺市九間町鍍金業大勝福雄の代理人辯護士石大次郎氏より、鶴三升の代理人辯護士丸山長渡氏に對する養女緣組失効の訴訟にて、今事の

起因を尋ぬれば、最初福鶴が幼少の頃鶴三升に抱へらるゝ際年期は七ヶ年と定めたるが、抱主は雇傭契約よりも養女縁組が確實なりと唱へ、年期が來れば本人の自由次第といふ内約の下に福鶴を養女に入籍したり。然るに其後福鶴は妙齡に達し日本橋區本町藥種問屋島久の主人といふ後楯を得たるより、茲に落籍の相談が始り父の福雄より鶴三升へ談判せしに、鶴三升にては容易に承知せず、第一の養女福壽は北里博士に六千圓にて身受けされし前例もあれば、五千圓位出せば承知すべしと吹掛けしにぞ、福鶴父子は膽を消し、斯くは辯護士を頼んで法廷に訴ふるに至りしなり。

△第一審の判決　第一審は東京地方裁判所民事部田山裁判長係にて審理あり、原告代理人よりは縁組無効の理由を述べ、養女は親子に準ずる効力を生せしむる目的なるに、被告の場合は然らず、當事者間には親となり子となるの意志毫末もなく、只營業上の一手段として縁組せるに過ぎざれば、民法上の養子縁組に非ずとて同法八五二條を引用して主張し。被告代理人は之を駁し縁組は要式行爲にして届出をなすによつて効力を生ず、故に其届出ありし以上は無論有効にて親子の關係を結ぶものなり。と主張し裁判長も終に有効と斷じ。動機の如何は問ふ所にあらずとて原告の請求を斥けたり。

△控訴院の判決と上告の棄却　然るに原告代理人は之を不服として控訴し、控訴院和仁裁判長は審理の上假令届出あるも、縁組を爲すの意志あるにあらざれば届出は効力を生ぜず。とて第一審を取消し、原告の勝訴となしたり。被告は更に之を不服として上告し、飽く迄も有効を主張せしが、大審院富谷裁判長は控訴院の判決を正當とし、昨日其上告を棄却したれば、茲に縁組の無効は確定したる次第なり。

(東京朝日新聞)

萬國廢娼同盟會は本邦に一會員を派遣せんとす

萬國廢娼同盟會は、其本部を瑞西國ゼネバ市に置き、世界各國の同會と氣脈を通じて其目的の爲に盡しつゝある有力なる團體なるが、英國に於ける最初の名譽會長は、有名なる故ジヨセフイン、バントラー夫人であつた。現在英國の廢娼同盟會々頭は、代議士ヘンリー、セトン、カイルソン氏にて、會計には大博士ジエームス、スチユアード氏を有してゐる。然るに先般日本にて最大の遊廓吉原が、全燒したるにも拘らず、日本の政府が多分は之を再興するに至るべしとの報告が、我同盟國に聞えたので、右同盟會では深く之を遺憾とし、熟議の結果、此方面に多大の經驗と見識を有する、モーリス、グレゴリー氏を日本に派遣し、之が爲めに出來得る限りの活動を試みらるゝことゝなり、多分本秋を以て來朝せらるべき由、内外數名の人々に通知があつた。

廢娼論巡査の免職に就て

一記者

前號に掲載した、吉原遊廓取締の任にある日本堤署在勤巡査山中氏の『公娼廢止論を讀む』といふ一篇は尙讀者の記憶に新なる處であらう。記者は同篇に附言した如く、斯の如き正論の士を當該風俗警察官中に有するは、斯界の爲に喜ぶところにして、天下恐らく氏と等しき正論の士が我警察官中に尠くなからうと忖度してをつた。而して是が爲に我々の警察官に對する尊敬の念を多少强ふしたのは事實であつた。然るに圖らざりき、八月十二日山中巡査は突如免職處分ではないが辭表提出勸告を受けた。彼の簡單な一文が上長の忌諱に觸れて職を剝がるゝに至つたのである。

茲に吾々の了解に苦しむ事は、（紙面の都合にて本號より次號に廻はしたる彙報欄讀賣新聞記事參照）

賭博の取締をするのは博奕打の警官ではいけない、盗賊を取締るには泥棒の巡査ではいけない、つまり賭博を取締るには最も賭博嫌な警官を要し、泥棒を取締るには最も泥棒を罪惡視する者にして、始めて取締も行はれる事と信ずる。此意味に於て遊廓等の如き人を欺くを以て業とし、殆んど一種の魔酔劑を飲まして人の金を取る商賣をしてゐる醜業者の取締の爲には、其醜業を蛇蝎の如く憎んでゐるものが取締として最も適任で、山中巡査の如き人は、警察官が其目的を達するが爲には願つてもない人物といふべく當局者は嘸かし喜ぶ事だらうと思つてゐたのに、奚んぞ知らん結果は全く反對であつた。此は我々と當局者と意見の異る處で止むを得ないとして敢て口を噤んで何事をも語るまい。乍併是非當局者に對して要求の止む能はざるは、如何なる理由を以て氏を免黜し若くば勸告したか、其理由が聞きたいのである。當局署長は山中巡査に對し毫も理由を語らなかつたのみならず、讀賣新聞記者には病氣と稱して面會を拒んだ。而も僅に述べたる處は頗る曖昧にして要領を捕捉する事が出來ないのである。

是に於て吾は言はんとする、若し巡査の身にして自己の職分上の論評は服務規律に違背するもので、つまり教育家なり官吏なりが政治論をする事の出來ないのに政治論をしたといふなら、我々は何も云はない。併し若し果してさうであるならば、抑も署長は何が故に新聞記者を逃げるのであるか、頗る解釋に苦しむのである。吾々の恐るゝ處は、若し此僅にして曖昧裡に葬り去つたなら、此廢娼論の爲に免せられたといふ事を新聞で見た巡査達は、我々は廢娼論者になつてはいけないといふ考を起すに違ない。而して其考の中には、我々の上長は貸座敷營業保護論者である。貸座敷營業者を敵視すると上長の忌諱に觸れて、昇給がなかつたり轉勤させられたり位はまだいゝとしても、免職等の事があつたら一家族の難儀だと怖れしむるが如き觀念を惹起するは必然で如斯は思ふに當局者の志ではあるまい。之を以つ

て我等は當局者が理由を明にせぬのを特に遺憾とするのである。

若し公明正大にして且つ穩健な當局者だつたなら恐らく諭旨免官などになる事はあるまい、よし職務上の議論をしたといふ事が惡いにしても一遍の注意を與へ、議論の趣旨は結構であるが服務規律に反するから將來を愼むやう、といふだけでよからう、唯注意を與へる事丈ですまないならば何處かへ轉勤させる位のことで必ず事は足ると思ふ。

終に誤解のないやうに一言を添へて置かう。我々は山中氏の爲に泣言を並べるのではない。屈竟な男子が國家の爲に又正義の爲に働く場所は警察に限つた事はない、いくらでも他にあつて、我輩を以て見れば敢て痛くも痒くもないのであるが、暫く局外の地に立て當局者の這般の處置を批評眼を以て見る時は、遺憾に思ふと云ふよりは寧ろ氣の毒の感に堪へないのである。（珠川）

秋夜物語

T、S生（投）

茲に最も悲慘な話がある。それは自分が昨秋歸朝前、清國天津での事である。友人一同は自分の爲に同地の〇〇〇と言ふ大きな料理店で送別會を催して呉れた。側に居つた一人の仲居は陽氣に座を引立たすべき筈だのに、ともすれば滅入るやうに沈んで、無理から笑顔にまぎらさうとするけれども、包み切れぬ熱い涙はほろ〳〵と零れる。年は二十二三、薔薇色の頰肉は落ちて病み上りのやうに青褪め、厚化粧の甲斐もなく後れ毛はいた〳〵しい。

『內地にお歸りなさるんですつてね、ほんとに羨ましいわ………』。

『何故？お前だつて、其麼に羨ましい位なら、歸つたら好さゝうなものぢやいか』。

『妾達が、怎うして歸れるものですか、若しお歸り

になりましたら、誰方にでもさう仰しやつて下さいな。妾達は皆、最早死んだ骸なんですからね、内地には何にも知らぬ無垢の處女を誘拐しやうとしてゐる惡魔が、澤山居りますからね、其麼者どもに欺されぬ様に私の經歴をお話しますから、惡魔の手に乘らぬやう、世の中の人々に知らせて下さいな……』。
女ははふり落つる涙を拭き、噛み締めた唇を開いて、語り出でたのは恁うである。

女の名は菊枝といつて神戸の者で、何某高等女學校を卒業した後は熱心に裁縫の稽古に通つてゐた。其師匠の内は何處も同じやうにやはり仕立物の看板を掲げてゐた。そして賴みに來る人々の中に一人の婦人があつて、いつも〳〵うら若い娘達の心を唆るやうな立派な衣類ばかりを持つて來た。御辭儀の度重なるに伴れて、弟子達と口を利く様に親しくもなつた。

或日其婦人が來て師匠に言ふには、自分は天津に貿易商を營んでゐるものであるが、裁縫の出來る人で且つ學問も一通りある者を家庭敎師として雇ひたい、お弟子中にお望みの方はあるいか、仕事と云つては唯、裁縫を宅の子供に敎へる事と、小學校に其子は通つてゐるのだから學校の複習だけを願ひたいといふので、師匠は菊枝に恁うだと勸めた。彼は一度は斷つたけれども幾度も是非にと菊枝の宅に迄來ての懇望に、遂に兩親もまさか醜業をさせられると知らう筈もなく渡航を約束した。すると直に仕度料として百圓出して、約束と期限等は到着の上定めませうと事もなげに言つて、其百圓の受取を旅費の立替としての領收證を書かせた。
愈々出發の日が來て船に乘り込むと二等室で、何の怪しむ餘地もなかつた。兩親や親類の人達は非常に喜んで、着いたら身體を大切に勉强してお子様の御世話を申上よ等、何くれとなく注意した位であつた。翌日船が門司に着いて菊枝は夫人に伴はれて上

陸し其處此處を見物して立派な食事で御馳走された菊枝はもう何となく出世でもしたやうな氣がして希望に充ち〳〵て出帆間際に歸船した。

甲板に立つて遠かり行く故國を懷しと見送つてをつたが、愈々船が港外に出ると今の今迄親切な優しい貴夫人の態度はがらりと一變してお前は三等にお出で、と素氣なく言ひ放たれ、はつと驚いて之は又何故と胸がどき〳〵してゐる處へ、人相の惡い男がやつて來て暗い穢い三等室の隅つこに伴て行つた。而もそこには同じ運命に泣く哀れの乙女が十五人もゐたのであつた。かくて菊枝は始めて彼等の毒手におちた事を悟り袖を咬へて慟哭した。十五人の娘、それが皆聲をしのんで哭いてゐる。船は今潮逆卷く玄界の荒洋にかゝつてゐる、逃げる等と云ふ術のありやうもなく唯彼等は神佛に祈つた。何か話でもしてゐやうものなら例の人相の惡い男が凄い眼を光らして、何を愚圖〳〵言つてるんだい、泣いたつて喚いたつて追付くものかと罵る、女達は運命を神に任して三日三晩を泣き明した翌夕、〇〇丸は天津の紫竹林の波止場に橫つた。

すぐに彼等は車で今の料理屋へ護送せられて其夜は怖しき夢に終夜眠りは安かでなかつた。翌日は女將の室に呼ばれて、此證文に判を押せと云ふ。讀んで見ると約束とは雲泥の違ひなので捺印を拒んだ、すると例の人相の惡い男が出て來て、此阿魔め强情を張るかと云ふなり毆りつける。厭なら百圓の旅費と食事代と合せて二百五十圓の金を耳を揃へて返せと强迫し、遂に菊枝を始め泣く〳〵觀念の眼を閉ぢて彼等に身を任せるべく餘儀なくせられた。そして其晩から客を取らせられた。處女の純潔は泥土に委せられた、あはれ尊き操は蹂躙せられたのである。彼等の悲痛の果して甚麽だつたか想像に難からぬではないか。神も佛もない世かと呪ふ聲の如何に悽愴を極めたらう。

故國から來る懷しい手紙は一度必ず主人が見て渡すし、彼等の出す手紙は悉く檢閲して少しでも惡い

と毆られた上書き直させられる。そして惡手代が代筆して都合のいゝ手紙を出すのだから少しも其實狀は内地には分らないのである。

『妾も、とう〳〵親の死に目にも會ふ事が出來なくつて親不孝者になつちまいましたわ』

菊枝は涙をのんで吁つと溜息をもらした。

『三度の食事といつたら、朝は支那米の極下等なのに、味噌汁の酷く粗末なのが一椀きりと、香の物一片きりなんでしやう。晝も晩も、似たり寄つたりですから、自然客を取つて……お菜を買つて食べるんですの。花代は七分が主人で三分が自分のものになるんです。其で代が拂へなければ借金になる譯で、利息は月に七分取られます。隨分亂暴ですわねえ…。領事館や警察に行く事處か、門からは一足も出しませんのですもの、怎うする事も出來ませんわ。

どうせ妾はもう汚れた身體もう疾うに死んだ積りでゐますから、今に色も香もない婆さんになつて菰を冠つて歩くやうになりましても諦めてゐますけれども、女が外國に行つて職業を求めやうとか、金を利けやうとかするのは大變な間違の基ですから、せめてこれからの人々に妾達のやうな地獄に陷らぬ様世の中に知らしてやりたいと思つてますの………

それから、またも一ツあるんですよ。聞いて下さいな。せめてもの心やりですわ………』

菊枝は暗然として語り出やうとする時、襖がさつと開いて、意地惡さうな女將の顏がぬつと出る。

彼は口を噤んだ。

あはれ語らんとするは何事？ 縷々として血を吐く杜鵑、想へ悲愴堪へ難き慘憺たる彼等の生活を。彼自ら曰ふが如く眞に何人か彼等の上に尙『生を』認め得やう。在外醜類の惡辣は到底意表の外である。心ある者よ、起つて彼等を生死の境より其何れかを擇ばしめよ。半殺しは苦痛の最も大なるものとや、さなり彼等は其半殺しの圈内に置かれたる弱き同胞ではないか。

海嘯後の洲崎を見る

七月二十八日田端に日向代議士夫人を訪ねて、「吉原もあの始末、洲崎も此有様で、どうしても私共は茲に何かのみ心があるとしか思はれません」との詞を冒頭に、色々の話を承はり、其足で記者は洲崎海嘯の跡を見舞ふた。

入口に巡査が五六名で番をしてゐて一々誰何してゐる。記者は自分の名刺を出し『廓清』を見せて、娼妓の事を書いてゐる者であるといつたら、快く入れて呉れた。御禮の印に其巡査に『廓清』一冊を贈つた、讀んで見て後からびつくりしたであらう。吉原の燒跡にも大門だけ殘つてゐるが、茲にも兩方の柱に、花迎喜氣向知笑　鳥識歡心亦解歌書いて大門が寂しく過去の榮華を語つてゐる。足がだんだん海の方に向ふに從ひ、はゝあ茲迄も水が這入つたんだなと思はせ、尚進むと五尺も水がかぶつたらしく更に進んで行くとあはれにも、宏壯な建物が算を亂して狼藉と横り、宛ら燐寸箱を石で叩き壞したやう。慘鼻の感に堪へざらしむる。遲かつたから死骸は見當らなかつたけれども、車夫の語る處によれば、僅僅五分か六分間の出來事で、全く身體一つ逃げる暇さへなかつたのださうである。何處かで鳥が鳴いて哀愁の情をそゝつてゐる。

後れ毛を搔き上げもせず無雜作に束ねた髮、青褪めた頰、洗ひ晒しの浴衣に細帶一ツで、物思はし氣な娼妓の群、三々五々悲劇を淋しく語らひつゝ譯もなく彼處此處とうろ〳〵してゐる娼妓の群れ、それ等の群に記者は持合せの『廓清』を一冊づゝ與へて皆で讀み給へと勸めて歸つて來た。（新遠江樓の自由廢業の導火線となつたのはアレではなかつたかと思ふ）跡から見付けて又打たれはしないかと心配したが幸に無事に歸る事を得た。

堀出したのは、貸座敷登樓者人相帳で、お客の年齡、色が白いとか黒いとか、鼻が低いとか、丈がどう

か、と云つたやうな事をつける帳面である。考へて見ればあゝ云ふ處に愉快の爲遊びに行き乍ら、まるで强盗か何かの人相書のやうに、彼等風情にそんなこと迄つけられ、這麼に馬鹿にせられても遊びたいと云ふのは、何たる淺ましい心だらうと、寧ろ氣の毒の感に堪へない。

もう一つは貸金帳で、一枚開くと、

此帳面ニ列記押印仕候金圓借用候處實證也、然レバ返金ノ儀ハ別紙契約書ニ基キ稼金ノ内ヨリ毎月精算之時々御返金可申上候也、

と活版刷りにしてある。之によりて知る、樓主なる者は、何とか色々の理由を拵へて一厘でも多く金を貸し、奴隷を繋ぐ借金の鎖が、どうにでも大きくされるやうな方法をこしらへて居る。又。

私儀何々樓に於て遊興致候處、遊興費不足の爲擔保として何々の品を相渡し候事實正也、此段御承認相成度候也、何々警察署御中、樓主何某、客何某。

之れも活版刷でちやんと出來てゐる。警察の樓主保護行届いてゐるのに感歎せざるを得ない。一體遊興費と云ふのは、玉代とか稱する云はゞ木戸錢を拂つた以外のもので全く餘分のものである。

若し當局者の稱ふる如く、遊廓が青年の獨身者のために、其性慾を洩す機關として許されて居るものであるならば、其目的さへ達すれば十分なので、王代以外遊興費なんぞを使はせなくともいゝ筈ではあるまいか。一體遊興費の嵩むのは、人の愚を利用し、酒色と云ふ魔醉劑を與へて、弱い意志を愈々鈍らしめ、一種馬鹿になつてゐる處を益々愚ならしめた結果で、遊興を拒絶する能力を失はしめた結果だから、一種の强奪とも見ることが出來る。之は賭博以上の罪惡であると我々には思はれる。如斯賭博以上の惡事に對して、警察は何故に飽迄保護を加へて一厘でも貸座敷業者に取りはづしのないやうに骨折り、苦心するのであらう。娼妓に對しては自由廢業の届けをしても、動もすれば異論を挾んで、彼等が悔改めて

正業に就かむとする志を妨げつゝ、樓主に對しては至れり盡せりの保護政策、親切なるかな警察！。

も一つ拾つて來たのは、娼妓と樓主と二人で捺印の上、其貸借を警察へ屆け出づる用紙である。抑も金錢の貸借は事民事に屬するのに、八釜敷警察が之に干渉すると云ふのは其意を得ぬ次第である。或は樓主が娼妓の無智文盲を利用する刑事上の問題を未發に防がんが爲の手段であるかも知れぬが、事實は却つて債務者、則ち樓主を保護する結果を生んでゐるのである。以上當局者の一考を要する所たるのみならず、記者は洲崎訪問によりて益々我徒の聲を大にして、廢娼を絶叫するの必要を感じたのである。

吉原雜觀

角袖生（投）

秦の始皇の後宮には三千の美姫が居つた、新吉原と謂ふ一區劃には三千の醜業婦が居る。始皇の後宮を阿房宮と謂つた、新吉原は寔に明治昭代の阿呆宮である。此阿呆宮を觀察すべく僕は八月十五日雷門から南千住行きに乘りかへて、山谷停留場に下車した。

『おい、花魁さんがさ、竹ちやんはほんとに樣子がいゝッて云やがッたぜ、えおい、どうして吳れるんだよ、えッ、やり切れえぢやれえか』

『ふん、さうだらう。ひゝゝゝ、ひよッとこ野郎が、勘定が足りなかないかと、びくびくし乍ら飮んでる樣子がいゝッたらうよ。ヘッヘッ。』

『何云ッてやんだい。先日の晩だッて見ろよ、四人も離はしを取つてゐたのに、憚んながら俺樣の處へつきッ切りだいッ』

『へん笑はしやがらあ、手前の樣なおたんちんに、ゝゝゝ、何處の馬の骨が惚れるかい。すまれえが此吉さんなんざあ、斯う見えたッて、ちやあんと九重さんがついてゐんだかられ』。

『手前にか？』

『さうよ』

『横根が？』

『何云ッてやんだい、へん、濟まれえがよ、先日歸り際にあの階段でよ、何と言つたと思ふ、えおい、畜生ッ、堪られえなッ。』

『金が出來たら、又お出ッてだらう、お目出度えや。』

突つかけ草履の、千鳥足の二人伴れ、熟柿の樣な酒臭い息を吹いて、見返り柳を左に這入る。彼等の後をおふて來た僕は大門前に佇んだ。

來るわく、十人二十人束になつて狹くもない路幅を一ぱいに間斷

なく繰り込む。と其間を意氣揚々とゴム輪の車が、スーッーと烈しい掛聲でやつて來る。僕は雪崩を打つて寄せ來る夥しい人數に肝を潰して呆平してゐると、ともすれば突倒されさうな位。尤も此七時から八時迄が最も雜閙する時刻で、試に此一時間大門を這入る車の數を調べて見た處が、恰度百〇三臺で、二十七臺迄は殆んど追ひ續けであつた、中には五十にも近からうと思はれる男の相乘りもあつた。車から車の間に徒歩で這入る嫖客は平均十人以上位に見做されたから、之によつて計上して見ると一時間千人以上である事は確である。

僕はやがて此醜域に足を踏み入れて驚いたのは我々が聲を大にして廢娼を絶叫してゐる一方に、かうしてどん／＼本建築で見事な建物の建ちつゝある事で、忽ちの間に往時の阿房宮は再現せられるだらう、そして益々醜名を世界に馳する事であらう。が乍併我輩が此夜ひそかに意を強うしたのは、此等の嫖客が主として職人及中以下の商業從事者であつた事で、換言すれば教育の低い階級であつた事である。

大通りの樓では餘り嫖客の勸誘は見受けないやうであるが、横町の中店以下になると頗る猛烈で、僕等に對しても『一寸洋服の旦那』とか『眼鏡のハイカラさん』等と兩方から浴せかける、私は非常に侮辱せられたやうな氣がして腹が立つたが、下手にまごつかうものなら、例の長煙管ですつと着物に絡みつける巧妙な手練に驚かされるから、急ぎ足で通りぬけた。彼等はかくして喃々と其艶姿、其秋波、で遊冶郎の魂を蕩かして登樓せしむるのである。現に揚屋町二の河立花樓では、制帽を冠つた十七八の學生に、禁止の吸付煙草を飲ました上、さう／＼登樓てしまつた、（二十歳以下の者は登樓させる事は出來ぬ規定であるのに）、江戸町二の愛花樓でも住八幡樓でも娼妓が遊客を格子戸から捕へてゐた、第三太田樓では一人の客を娼妓が前から兩手を引張る、妓夫が後から押すしてさう／＼引入れた。這麽例は到底枚擧に遑がない。此等は元より違犯で、七月下旬から八月十六日迄にかけて、遊蕩勸誘の爲一週間の營業停止を命ぜられたのが。

江戸町二、相花樓、大勝樓、川上樓、改盛樓、駒花井樓、江戸町一、
金寶來樓支店、角町、桑港樓

である。傭人や娼妓や、嫖客に對して最も惡辣の聞えあるのは

京町一、金花樓、江戸町一、音常樓、同町二、太伍田樓

等である。遊廓の最も賑ふのは日曜日よりも、矢張職人等の休業日なる、朔日に十五日で、殊に午の日は廓内に夜店が出て雜閙する。

僕は今更のやうに、御會の事業の尊く一日も忽諸に附す可らざるを切實に感じつゝ、歸路について、江戸町一丁目の十字街頭迄來ると。

『旦那、公園迄十錢で如何です』

と車夫が跟いて來る、電車に乘るのなら雷門よりも山谷に出る筈だ、公園迄如何ですといふのは、取りも直さず我輩を公園で遊ぶ——切言すれば公園の藝妓か酌婦を對手に遊興する——ものと見て、慫うて勸めたのだらう、情ない次第だ。假りにも這麽恥づべき醜域に足を

踏み入れたればこそ、彼等に曰はれるのである、恰度在外日本婦人が動もすると醜業婦と間違へられて、侮辱を蒙ると一般である。

廓内には車の帳場があるから、返り車の客待ちを許さぬ事となつてゐるんだけれども、いつも此の江戸町一の一へ車を止めて、いくら警察から喧しく云はれても屹度十臺位はゐるやうである。

僕は間もなく此醜城を出て、暫し吾妻橋畔に新鮮な空氣を呑吐して、穢れを拂ひ去つた樣な氣になつてやうやく歸つた。併し夜の吉原を觀た僕は、是非共朝歸りの客を視察せなければならぬと思つて翌朝再び山谷の電車停留場を下りて、大門の方に靜に歩を進むる、まだ午前六時半である。

『全くだよ、嬶に知られまいと思ふ苦心は、一通りぢやないね』

『そりやさうだ、併し僕は、先んずれば人を制すで、嬶に文句をいはれない中に、何か嬶の落度を見付けるか、或は何でも搆はぬから難題を吹つ掛けて、いきなり反對に怒鳴りつけてやるんだ、はッはッさうすると君、可笑しなもんで、向ふぢや一生懸命辯解すらあね、我輩は心の中ぢやお臍で茶が沸きさうだが其辯明を飽迄信じないか、或は駁するんだね、そして大に憤つてゐる風をして、一日口も碌々きかないで過すんだ、さうすると、それで屹度、、、おじやんになるんだからね、はッはッ、先んずれば人を制すだよ、はッはッ……』

『君の細君は柔　順だからいゝんだがね……僕ん處はそんな手ぢや駄目だよ』

『併し、大分持てたやうぢやないか、あれッ位別　嬪の花魁に持てりや、まあ細君の小言位は甘受してもよからう』

『はッはゝゝそりやさうさ、例もの通り昨夜は宿　直だつた事にしてゐて呉れ給へよ』

『あゝ其邊は御念には及ばんよ、はつはゝゝ』

背廣をつけた二十七八と、縮の浴衣に縮　緬の兵兒帶の三十あまりな、銀行員か會　社　員らしい二人が、ぼんやりした青い顔に、這麼話をしながら來るのに出會した僕は、聞き洩すまいと二人の後について停留所に來る。何たる淺ましさであらう、妻ある身であり乍ら、其妻に宿直だと僞つて這麼所に一夜の春を買ひに來るのである。それとも知らず晝夜勤務して歸つて來たのかと、其勞を犒ふ細君がいたましい。遊冶郎の過半數は妻帶者だといふではないか。

私はさういふ人達の家庭の上に、坐ろに同情の涙を禁じ得ない。

時計は今七時十五分前を指してゐる。電車の割引時間はもう十五分である。一夜の獸慾に滿足した醜劣な男子は大抵此時間迄に茲にやつて來る。僕は此十五分間の統計を試みた。朝の心地よい太陽の光線を彼等の正面に投げられて、けつたるさうな、、、、、、、ごんよりした眼を眩しさうに瞬いて、しだらない帶の締め方をして、昨夜の夢の未だ覺めぬ樣な顔に、伴れの男の肩を叩いたり叩かれたりしては、惚けて見たり冷かされて見たり、、、、、のらりくらりとやつて來る人數は、可驚、僅に十五分間に七十八人の多數にのぼつたのである。

現代的僧侶

△百年後の國民よ須らく記憶せよ
△吾徒の主張に對する佛教徒の態度

記者曰、本論は『宗教界』と稱する佛教雜誌七月號の堂々たる卷頭の社説である。抑も吾徒は嚴肅なる人道問題として、日頃悲境に泣く吾等の姉妹を其奴隷狀態より救濟せんが爲に、また二十世紀の今日、而も東洋第一の文明國たる日本帝國にあるまじき人身賣買の蠻風を一掃して、以て醜を東西に傳へ、嘲を千載に遺す陋習惡俗を改めて、文明國民の義務をつくし、國家の體面を完うせん事を庶幾ひ、微力を顧るに遑あらず大聲疾呼輿論の喚起に努めつゝあるのである。而して此時に當りて尨大なる勢力を有し、宛かも日本の國教を以て自ら任じて居る佛教界一派の態度は實にこれである。我等が廓淸の第一の呼び聲を擧げたる其の時、他の宗教家諸氏も必ずや些の躊躇なく共に吾人と提携して正義の旗幟を飜すであらうと信じて居た。而して南條博士の如きは實に此の吾人の預想を滿足せしめたる一人であつた。然るに圖らざりき、佛教派の一大雜誌が斯の如き社説を揭げて、冷笑嘲罵を縱にせんとは、記憶せよ、五十年後の國民よ、百年後の國民よ、之が所謂賢明なる大宗教家の批評であり信條でありしことを。

○現代人士が、概して近視眼的になつたのは事實ではあるが、特に宗教家、僧侶の近視眼的輕擧は、喜劇として傍觀するには面白いが、苟も身僧侶として、宗教家として、これを見聞するに當つては、唯冷汗の出る計りである。

○此頃吉原が祝融の災に罹つて全滅した、廢娼問題は社會の各方面より盛に唱へられ、新聞雜誌、はたまた演說會等に於て、時ならぬ花を咲して居る。近く神田の某會館にも這般の催があつた、其會の主唱者は、社會學者か、教育家か、或は基督教徒か、委細は知らないが、所謂現代の僧侶も其尻馬に乘つて、娼妓廢すべし遊廓廢すべしと唱へたらしい。

○此擧や社會學者、教育家基督教徒の手に委するのみにて充分であらう、敢て卓見あり聰明を以て自ら任ずる現代佛教僧侶の出る幕ではなからう。それに、立遲れの、たぢ〱氣味で、向鉢卷か何かで、しばらく〱と馳せ參じた體裁は確に現代僧侶の卓見は、近視眼的であると云ふの正當なるを覺ゆ。

○昔し草庵に香を焼いて、念佛稱名を松韻に和した時代から、電車にのり自働車を走らせ、飛行機で空中を迷行く世の中になつたのだから、無論僧侶の大に活動して見せなくては、世間體が惡からう。乍併活動すべき事件に關しては餘程の熟考を要すると思ふ。幾萬の僧侶が向鉢卷で九段坂の立坊となり、車の後押をしたからとて、宗敎家の大活動とは云はれない。

○先づ近頃流行の辻說法に『坊主も食へなくなつた』と見られても自身三界の大導師を以て任じたなら、是れ結構な大活動である。社會の實際事業に關係し改善を圖る爲に勞働者共濟會を立て、養老院、孤兒院、感化院を建て、施療院を設け、煩悶慰安所を開く、亦振つたりといふべきである、皆社會に親近なる宗敎的大活動である結構至極である、一點の非難を許さぬ所である。

○然し活動の大隋力が走つて廢娼問題に至つては寧ろ噴飯至極、お臍で沸した番茶が玉露とならうも知れない。

○何か突飛な、新機軸を出して社會を驚嘆せしめ樣として、朝に夕に、手を出す場所を探して歩くこと、宛然紙屑拾の如き現今の宗敎家が、聖賢振つて娼妓廢すべしと叫ぶは、當然有り相な滑稽談である、子供の冠る樣な兵隊帽を戴いて、餓鬼大將の調練ごつこの樣な、ブーカドンの救世軍が、自由廢業問題に熱中してゐるからと云つて、女郎屋苛めが、宗敎家の本分でもなからう。

○今で女郎屋へお經を讀みに行つて、お齋の御馳走になつた歸りに、『娼妓廢す可し』『遊廓撲滅せしむ可し』とは蟲の善い話なり。

○論者御自身も數年前迄は――或は現在に於ても或は將來に於ても――御厄介になつた娼家に向つて不倶戴天の仇の如く、熱血炎々として又も一廓を燒き盡さんず勢を示さるゝ事、さても怖しき次第である。

○吉原があるから女郎買に行く、女郎買に行くから墮落する、だから墮落者の根本救治策は吉原撲滅に

ありませんか、極めて名論にして卓説、釋迦も孔子も首肯致すべく候、然しながら、こは名論たり卓説たるのみにして、一向、社會の實際と交渉なきもので、春の夜の夢覺めて知る醜で、世の中は娼妓を廢したからとて遊廓を隱したからとて、とんと影響仕らず候。

○否事實は等差級數を以て大速度の墮落敗頽を示すこと、二千燭のアーク燈よりも明なり矣。

○吾輩敢て女郎買を勸むるものに非ず、遊廓の隆盛を希望するものに非ず、然しながら遊廓は人間社會の一機關たることは主張するを躊躇せざる次第である。（中略）遊廓の如き汚れた――彼等の口調を以てすれば――土地を吾人の視界より隱したならば、人世は餘程其外觀に於て純潔化されるであらう。乍併外觀のみ美しき社會は實際の社會學者宗教家等の眞實の目的ではあるまい。ペダントに非る限りは斯る慾求を公言する馬鹿はない筈である、然らば、廢娼問題は必ず其効果を、社會の內面的改革に迄及さなくばなるまい。然り彼れ廢娼論者は廢娼を以て社會の風紀を矯正し得るものと早合點して居るのである。頭から笑つて相手にす可き問題でない。遊廓改正問題こそ或は當路者研究の値あるものであらう。

○人間は如何なるものなりや、この問題を了解し、人間社會の組織を知り、青年期の生理狀態、勞働者の生理と心理の關係を考ふるもの誰れか、廢娼問題に考を走らすものがあらう。

○往來で出會ふ人が皆無漏の菩薩であつたなら當然遊廓は消滅し、娼妓は皆天人と職業替をしてしまふであらう。いくら世間見ずの愚鈍なる宗教家でも、小便が出たくなれば、共同便所へ飛込むではないか、東京市では共同便所の改良に腐心して決して便所廢止論も唱へなければ、小便禁止の命令も出ない。

○廢娼の極めて愚論なること、むしろ論者の無邪氣を想はしむ。然しながら、苟且にも現代の僧侶をして、一世の尊仰を得せしめんとせんか、斯くの如き愚論に雷同すること、少なくもかゝる輕擧に附隨する如きは大に警めざるべからざること、想ふ。（下略）



◉散娼制度と自由

△下野日々新聞

凡そ世に憐むべきもの其數多しと雖も、恐らく彼の娼妓の如く不遇のものはあらざるべし。彼等の多くは父母の爲め又は兄姉の爲めに一身を犧牲に供して苦界に勤め、殆んど獸類に等しき生活をなしつゝあるは爭ふ可らざる事實也。試みに彼等の生活狀態を見よ現に社會の別天地にありて起居も自由ならず、恰も動物園のそれの如く狹苦しき格子の中を狂ひ廻りて嫖客を漁るに汲々として價の黃金のために心だになき女子の節操を弄ばるゝも、甘んじて之に接せざるを得ず。若し夫れ彼等が一夜と雖も嫖客を迎へざることありとせんか、所謂お茶挽き女郎の異名の下に朋輩より嘲られ、又主人側よりも體よき虐待を受け、人知れず袂を濕すと敢て珍らしからず。而して彼等が父母より分ち與へられたる肉片を賣つて贏ち得る所の利得は如何。一人の嫖客に接し僅々二十錢乃至三十錢を越へざるに非ずや。然るに其内より日々の化粧料其他の費用を控除せざるを得ずとせば餘す處知るべきのみ、故に彼等は容易く此苦界を離脫すること能はず、遂に生涯を過るもの亦甚だ多し。

飜つて同じ醜業婦たる彼の藝妓又は酌婦を見よ、彼等は娼妓と異りて身體の自由を有し、氣隨氣儘に橫行濶步し甚しきは白晝公然嫖客を擁して此處の待合彼處の料亭と出入して醜行を演じ、就中酌婦の如きは晝夜所々を彷徨ひ客を漁りて淫を賣るも一人あつて之を怪しむものなし。然るに娼妓は全然之に反す、**若し娼妓が賣春婦なるが故に風俗を亂す虞れ**ありとせば、彼等も亦藝妓酌婦と其名異なるも實際に於て賣春婦なれば風俗を紊すの虞ある也。敢て徑庭あるなし、否然るのみならず。彼の害毒の此に十倍せるは皆人の認むる所たり、多害を遇するに寬道を以つてし、寡毒を待つに嚴道を以てす、豈其當を失せるの甚しきものに非ずや。余を以て之を觀るに如上の如く不條理にして獨り娼妓の自由のみを拘束して彼等を苦しめんよりは、寧ろ散娼制度に改め其筋の取締りの下に自由を與ふるに若かざるを信ず。

近頃青年間に花柳病の著しく瀰漫したるは誠に憂ふべき現象にして、一日も等閑に附す可からざるなり。斯の恐るべき花柳病を絕滅せんと欲せば須らく其媒介者たる藝妓酌婦等を驅逐せざるべからず。彼等は巧に法規を犯し密淫賣するが爲め花柳病を媒介して社會に害毒を流す事極めて大なり、現に本年度宇都宮市に於ける徵兵檢査に際し、壯丁に花柳病の增加したるは則ち彼の淫賣婦が跋扈せる結果なりと云ふを得べし、而して此の憎むべき淫賣婦等を驅逐する方法は、先づ彼の公娼を解放して散娼制度に改むるにあり。是れ則ち一面に娼妓の自由を認むると同時に、又他方には彼の淫賣婦等を自滅せしむるの良策たるにあらずや。

◉珍妙な動物園

△東京日々新聞（土肥鶚軒博士談）

吉原が火事だといふ電報の達した時は、伯林でも大評判で、數日間は孰れの新聞にも、橫濱市中雜鬧の狀況や、嵐山船遊の風景な

どを掲げて、これが「ゲイシャ」だと吹聴されたのには、滑稽極まって恐れ入った。

同じ頃亞米利加にも大火があつたに、なぜ吉原の火事のみが斯く評判高かつたかと云ふに、是は外國人の日本に觀光する者、先づ東京に入れば遊廓に案内さるゝ。それを恥とも思はないで、却つて麗々しく記行に綴る日本旅行記に、吉原の記事がなくては體裁をなさぬかの如くに競ふて名文を草するからである。

凡そ自國にありては、人前で口にするを恥づる事柄でも、外國の事とし云へば、嘲笑的憐愍的口調を以て、公然之を筆にして得意顔なるが通弊である。有名なる佛國の小説家ピエヨッチーのマダム、クリザンテーム（お菊さんの）如き其好適例である。

斯て吉原は世界に名高くなつた遊廓は恰も日本の特産物かのやうに評判さるゝ。併し遊女は世界到る處に存在するので、殊に我邦の如き集娼制度も處々に行はれて居る。只相違の點は成るたけ外間に目立たぬ様に努めて居る。

尤も吉原の如きも、一歩大門に踏み入れば其所は別世界で、即ち一の廓、一家の屋敷内と思ってよいのである。夫れを外國人は矢張天下の往來だと解釋するから、種々の誤解を來すのである。

近來文明國の特志の婦人や宗教家たちが、我邦に來りて頻に廢娼論を唱へて居ると聞くが、其熱心や誠に感ずべく、其好意や眞に謝すべきである。

若し不幸にして依然其形跡を存するとすれば吾輩は第一に公衆衛生の上よりして、之を監督するのに便宜なる方法を講ぜねばならぬ。斯くて存娼の已むを得ざる以上、我邦にありては、散娼よりも寧ろ集娼の方が、風俗習慣と衝突する點が少なからうと思ふのである。

只注意すべきは、妓樓の組織如何である。殊に外國人に異様の感を與へるのは格子造りである。綺羅を飾れる多數の遊女が、格子の中に座つて居る様子は、恰も動物園の檻の中に、自由を束縛されて居る禽獸同様、まるで人間を動物扱ひにするものだとて、外國人間に常に議論の種となつて居る。

無論風俗習慣を異にする外人の觀察の往々正鵠を失するは今に始めぬ事なれど、その檻中に在る人間で、吉原の名は世界に隠れもなくなつた。其珍妙な動物園が焼けたといふので、益々評判が高くなるに至つては、如何にも心外千萬である。

◉廢娼の根本問題

△中外日報（京都）

廢娼問題の唱へらるゝ一再ならず、今又吉原の全焼を機會とし、主として基督教側に依りて同問題は叫ばれつゝあるが、該問題の精神たる人道の發揮、醜跡の勦絶を期する理想に至つては恐らく異論を挟む者なかるべく、宗教の如何を問はず双手を擧げて賛成すべきは無論也。一部佛教者に見るが如く、宗派感情の奴隷となりて基督教者の提唱に不快を感じて、之に耳を假さゞるが如き頑迷の態度は排斥すべし、南條博士が曩日基督教徒と伍して廢娼演説の壇上に起たれしが如きは博士の意思いづくに在りとするも、宗教家としての公然なる態度を示されしものとして喜ぶべし、吾人は大方の宗教家が如此萬事に處して如此公明大量の態度に出でんことを望まざるを得ず。

されど公明なる態度を持するも、其主義信仰を把持し又た研究を積まんとするとは自ら別なり。徒に感情に制せられて或は附和雷同し、或は反撥相容れざらんとするは最も愼まざるべからず、廢娼問題たる亦然り、宜しく感情を離れて冷靜に利害得失輕重を攻究し、

社會の福祉と人道の發揮に盡さゞるべからず、吾人は此問題に對して興味を有し、微弱研究に心を寄せたれる一人なるが、種々の感想と疑義に逢着し、露骨に云へば充分氣乘りせざるものなり、而して其理由の一二を云はんか、

廢娼實行後の善後策如何の如きも其一なり、廢娼論者は或は直ちに歐米の例を引き、廢娼の結果憂ふるに足らずと云はんも、留かく輕々に論じ得べきや否や、歐米に於ける風俗壞亂の事實は何を說明しつゝありや、歐米其物が事實に於て頗る怪しきものならずや、近く公娼廢止の先驅者を以て知られし群馬縣は如何、淫賣婦酌婦の激增を來せしにあらずや、人心の更に向上せざる限り道德の最高理想を翳して萬人に强いんとするは、角を矯めて牛を殺すの虞れなしとせず、廢娼の効能書は尤千萬なれども、論者はその効能を井ぶるに急にして廢止後當然起るべき問題に就て說く所適切ならざるは不親切の嫌なきにあらず、廢娼の道理ある主張にして而も實行の難きも緊つて事後の問題に根ざせり、次で感ずるは廢娼論者は其目的を達するに政府の法律又は社會の制裁を以て禁止せんと努め、或は請願、建議、演說等を以て唯一の手段となすものゝ如し、要するに外部より動かさんとするものにして、所謂醜業者の自覺を促がし、外界の强壓を俟たず彼等自身をして自動的に醜業より脫せんと心懸けしむる計を看過せり。

吾人は運動の方策として迂濶なりと感ずるのみならず、醜業者に對して同情を缺き餘りに見縊り過ぎたる仕打にして、運動の成功を難うするものなり。彼の天理教信者の二妓樓が自己の信仰より發動して今回斷然足を洗ひしと傳へらるゝが、最も健全なる廢娼の實現は如此ならざるべからず、外部の强壓に依りて餘儀なく廢娼せしめらるゝとせんも、未だ根本問題の解決をなすに足らず、基督教者が何故に斯かる見易き道理を顧みずして、請願、演說等の非宗教的運動に浮身を窶し居れるか、吾人は了解に苦まざるを得ず、外的防止策の如きは枝葉の問題なり。

人心の改善向上こそ至重至大の根本問題にして大に宗教の傳道に俟たざるべからず、此點に於て目下の廢娼運動は頗る徹底せざる所あるを感ず、而して此の根本問題に觸れざる巳上は態度自ら眞摯を缺ぐは當然にして、救世軍が廢娼を以て廣告手段に供する嫌ひあるが如き、遊廓に闖入して妓夫車夫と戰ひて得々の色ある稚態の如きは、廢娼の根蔕たる人道の權威をすら輕んぜしむるに至らん、抑も廢娼問題の如きは聲の問題にあらず、實行の問題なり、不言の信念問題なり、衷心の自覺問題なり、一氣呵成に騷ぎ立てゝ成功すべき問題にあらず。

記者曰く、中外日報も亦佛教派の機關新聞也。宗教界の所說といひ、又この議論といひ、彼等の此重大なる人道問題に對する意見以て知るべきのみ。

●本誌と地方新聞（一）

▲福島民友新聞

公娼制度の全廢を目的とせる廓淸會の機關雜誌也、廢娼に就て八方より眞面目に研究し其結果を以て天下に絶叫する所最も痛快を極む。

▲尾福日報

廢娼問題を呼號して立ちたる廓淸會の機關雜誌なり、大隈伯江原翁島田沼南安部磯雄山室軍平其他數氏の說皆讀むべし、卷頭同會報趣意書は堂々たるもの。

▲鷺城新聞

新に生れたる雜誌にして各名士の公娼廢止論を絶叫せる心地よし。

本部たより

●本會々長島田三郎氏　は去る三十一日橫濱を發し、米國太平洋協會の聘に應じ、四ヶ月の豫定を以て、渡米の途に就かれ候。先方へ到着せられ候はゞ本會の事業の爲にも及ぶ限り盡力し米國の有志者とも此問題に就て相談せらるゝつもりに候。されば歸朝の際は必ず喜ばしき報知を齎らさるゝ事なるべくと信じ居候。

●本會理事益富政助氏　は去月二十六日約十五日間九州巡回講演の爲め、出發せられ候。同氏の此行は鐵道青年會理事として有之候も、本會の爲めにも出來るだけ活動せらるべき答に候。

●本會が呱々の聲をあげてより、未だ僅々二ヶ月に過ぎざるに不拘、諸君の熱誠なる御助力によりて社會の各方面に反響し世の識者の反省を促しつゝある事は、眞に喜ばしき現象にして、藝妓の養女を否認したる大審院の判決(本號雜纂欄參照)の如き、敢て直接に吾人の事業の影響ならずとするも、少くとも此方面に對する世人の注意の反映たるを信じ得べく、お互の同慶に堪へざる處に御坐候。

●原稿輻輳の爲不得止『霙報』を次號に廻し候

前號要目

廓清　毎月一回一日發行

定價表		
一冊(一ヶ月分)	金拾錢	郵税五厘
六冊(半ヶ年分)	金六拾錢	郵税三錢
拾貳冊(一ヶ年分)	金一圓十錢	郵税六錢

◎御注文は一切前金に發賣元へ願上候
◎郵劵代用は一割増振替貯金貳錢增

廣告料		
等級	一頁	半頁
特別	金拾圓	代六圓
普通	金八圓	金五圓
一回分		

明治四十四年八月卅日納本
明治四十四年九月一日發行

東京府下大久保百人町百卅八番地
編輯人　益富政助

東京市京橋區南鍋町一丁目一番地
發行兼印刷人　伊庭孝

神奈川縣川崎町砂子百三番地
發行所　廓清發行所

東京市京橋區尾張町二丁目十六番地
發賣元　警醒社書店
(振替東京五五三番)

大賣捌　東京堂、東海堂
北隆館、至誠堂

Public Men and Public Morality Count Okuma's Theme at Kakuseikai Inauguration.

"I have been looking forward for this day to come. "In the evening of which at the opening ceremony of the Kaku sei Kai, I, as one of the projectors, intended to be present and express my opinions concerning this question and wanted to contribute to the awakening of the slumbering conscience of the public. Unfortunately enough, however, since a fortnight ago I have been suffering from laryngal trouble, which has resulted in some difficulty in the neck; for this reason I was, at Dr. Aoyama's advice, prevented from addressing a public assemblage. I regret this very much. But as it will be more regrettable not to speak and keep my tongue on such a congratulatory occasion, I shall unfold a portion of my opinions on this question and appeal to your just and impartial judgment.

"At the outset, if I am permitted to speak, I declare that I myself am an abolitionist of the licensed quarter system. I have published a portion of this reason in the first number of the *Kasusei*, so I solicit your reading. This problem is not only connected with public morality, but also greatly with politics, law, education, household, and sanitation.

"I want to divulge my opinion later, as opportunities are presented before me, on this problem from these various points, but now let it suffice for me to comment only on the question from the standpoint of 'Public Men and Public Morality?'

"Under whatever Constitution a nation may find herself, if she hopes to utilise her civilisation to the best validity, she is essentially required to be simultaneously attended by the progress of public morality.

"Speaking of public morality, ordinary men and public men absolutely differ in criterion for its discussion. Because what is perpetrated by public men, though it of a nature to be discussed with private morality, must be dealt with as public morality. Hence public men, if, guilty of an infringement of public morality, they can never be free from the condemnation of having committed two crimes at the same time.

"As for the morality between man and woman if spoken of unreservedly, will seem indecency, so I shall be silent on this side, but every one can not, I should think, deny that public morality, whether sound or unsound, is always found to be mainly as originated in the relations between the sexes. And the sins between the sexes committed by private men can be dealt with as private morality, while those of public men, though they be concerned with private demeanor, must be dealt with as public morality.

"This leads to the conclusion that the sins concerning public morality committed by those occupying such positions as governmental officials, members of the Diet, members of prefectural, municipal, town, and village assemblies, lawyers, teachers, religionists, as well as many others in public position, must be dealt with as public morality.

"The disorder of public morality arises mainly from the violation of the same by public men. It is sufficiently obvious that whatever the governing affect the governed follow. But with much sorrow, I learn those who occupy the prime positions frequent the so called *machiai* and there discuss important affairs of State. How inconsiderate they are! The geisha of today, as the term suggests, 'sell' their performances, but facts show that they are often engaged in immoral behavior.

"What does *machiai* stand for? It stands for a rendezvous; but has

it not come to mean substantially the licensed quarters at present? I can not but be suprised to learn that public men go in and out of such unbecoming places and do not consider it beneath their dignity. I can not help ascribing what the public morality of Japan to-day is getting more and more disordered and the morality between the sexes more and more depraved to the unfavorable behavior of these public men.

"The ignominious conduct of individuals is limited chiefly to themselves and those concerned in them, but those of public men not a little tend to demolish good and sound public morality. Man is easier to be moved by actually witnessing conducts than by hearing stories.

"So, however, much the educationists talk about morality and emphasize ethics, if the set the public the examples of their bad conduct, their efforts would remain ever invaluable. The Imperial Edict issued in 1909, for instance, however much the authorities may try to explain to the people the Imperial will so embodied, even until their tongues get weary, ad thus endeavour to inspire the spirit of loylity, filial piety, and thrift, or by teaching them the necessity of humanity, justice, and morality, and exert themselves to lead them to good ends,—if those who talk about such things are not perfect in their own qualifications, as models for others, they are only hypocrites and deceivers, and their words and discussions only bring upon them the mockery of the public. What is meant by *manabu* or to learn? It is derived from *manebu*, to imitate. Confucius says 'Learn and perchance practise.' Learning without practice will attain no successful ends.

"Turning our attention to another side, the infringemnt of public morality is not only sought in the relation between men and women, but also in taking a bribe in public office and dealing with public affairs at one's will. The sages of yore abhorred this act of impurity, and left no stone unturned in warning against such conduct.

"Why is it that such conduct can not yet be removed from the world—whether in the East or in the West? Bribery of gevernmental and public officials is, however, strictly punished by law; yet the licensed quarter system, despite the existence of laws and regulations, retains its old form, and is not carefully dealt with.

"I hear the evil prevails over the country, and various sins and crimes are secretly committed. This urges us to the task of removing such evil tendencies.

"At this opportune juncture I congratulate the Association upon its establishment, of which I am twice blessed with the privilege of enlisting myself as a member.

"Lincoln who set himself on the same basis with Washington, in his capacity as a President, considered the slave-trade as a greatest sin of mankind, and stirred up the nation for slave emancipation. Based on the same spirit, Japan issued the ordinance of the emancipation of licensed prostitutes in the 5th year of Meiji, but it is only in form and not put into practice. To whom is this fault to be attributed? We have not yet heard that the Privy Council has revoked the ordinances. If so, the ordinances must still be existing quite unchanged. So we, in one accord, must press upon the authorities to enforce the ordinances most strictly.

"I have many things to say, but shall conclude my discussion, by assuring you of my purpose to strive for the reform of these evil tendencies."



髪の油は、何を用ふ可きか？は現今男女の最大問題なり

△邦家の前途を憂ふるは、豈たゞ政治家官吏、軍人のみならむや。邦家を愛する商工家も亦自己の利のみを考慮せず、舶來品に優る純良品を精製販賣し、邦家を益する献身的事業をなすの覺悟なかる可からず。

最良髪油みやけ油は發賣以來數年を經過し、其の品質の精撰に苦心し、改良に改良を加へ學理の應用に依り純良品となしつゝあり。故に宮内省御買上の光榮を得しのみならず、紳士淑女は勿論、全國各地、海外より注文續々至り、其製造に忙殺されつゝあり。近時みやけ油の名聲高まりしを羨み、四方の奸商は粗悪なる類似品を市場に續出し、顧客に粗悪品を賣附け、顧客は品質の良不良の判別に迷ひ、知らずして粗悪品を用ゐ、大切なる髪の衛生を誤る者多きは、嘆息の至りなり。茲に於て告白す。みやけ油は舶來品防遏の目的を以て生れ粗悪品退治の急先鋒にして邦家の必要品なれば、精々弊店の誠意を助力奬勵したまひ、人形町の最良髪油みやけ油を用ゐ給へ。

營業品目

香ナシみやけ油、香入みやけ油、優等みやけ香油、スキ油、ビンツケ、洗粉島ノ春、島椿、みやけ洗粉、スミ拔洗粉、粉末石鹸、洗濯用品等好評嘖々

東京市日本橋區人形町通
みやけ油製造元　木村三宅堂
長電話浪花　六二〇番
振替口座東京　八七五一番

明治四十四年七月十八日第三種郵便物認可
明治四十四年九月一日發行（毎月一回一日發行）